卒業50周年記念誌

大阪府立大学　電気工学科

ND9　昭和36年卒業生

卒業当時(1961年）の工学部建屋群

50年後(2011年）の電気系建屋（ロの字形）

平成23年10月発行

記　念　誌　目　次

		ページ
１、 巻頭言	田崎　三郎	1
２、 アンケート		
概要 説明	芦沢　幸雄	2
石井　武彦	稲田　昌義	3
小川　順宏	北野　雄一	4
久保田　康平	杉山　毅至	5
川阪　益造	田崎　三郎	6
谷口　宏一	津田　真臣	7
出水　博造	波多野　博司	8
長谷川　正彦	林　常雄	9
福田　武久	宮井　彬文	10
宮浦　昭太郎	森田　徹	11
保田　誠也	山田　稔	12
横松　丈志	吉田　哲郎	13
渡士　龍文		14

		ページ
３、 文集		
（１）徳田先生と中小企業（先生の思い出）	石井　武彦	15
（２）煙草について	稲田　昌義	16
（３）マッターホルン（写真）	小川　順宏	18
（４）吉田先生の思い出	宮浦　昭太郎	18
（５）東日本震災と電力供給について考えること	北野　雄一	19
（６）一握の砂と東日本震災	谷口　宏一	21
（７）私の会社時代の語学体験	津田　真臣	23
（８）卒業コンパと写真	新岡　武春	25
（９）自然鑑賞にみる詩歌	吉田　哲郎	26
４、 この５０年		
（１）卒業から50年	田崎　三郎	28
（２）写真で見るここ10年の同窓会	長谷川　正彦	30
５、 物故者を偲ぶ		
（１）浅田 充浩氏に捧げる。	川阪　益造	32
	北野　雄一	33
	久保田　康平	35
	津田　真臣	35
	出水　博造	35
（２）伊藤 泰郎氏の思い出	稲田　昌義	36
	小川　順宏	36
	津田　真臣	36
（３）伊藤 芳朗氏の思い出	久保田　康平	36
	北野　雄一	37
（４）内山 享氏の思い出	久保田　康平	38
	出水　博造	38
（５）増井 澄遠氏を偲ぶ。	稲田　昌義	38
	谷口　宏一	39
	吉田　哲郎	39
（６）矢島 昌典氏を偲ぶ。	宮井　彬文	40
６、 終わりに	編集幹事 発行人	41

＜ 巻 頭 言 ＞

我々ND9期生は2回生のとき歌集を作り，卒業時に記念文集を発刊した。

そして，文集の題字『百舌鳥』は光野先生に，表紙を飾る「百舌鳥」の絵は六島先生ご令室に，それぞれご高配を賜わった。結果として、100 頁に亘る立派な冊子となった。

この文集では，12 名の先生方からご寄稿を頂き，32 名のクラスメートがそれぞれ随想を執筆してくれた。その中には，いまは亡き増井君，伊藤（泰）君，浅田君の懐かしい一筆もある（表題一覧は 29 頁を参照頂きたい。）また，11 項目に亘るアンケートには，クラスメート 50 名のうち 44 名が回答している。

編集は波多野君が中心となって行われ，福田君，本田君が尽力された。印刷には津田君の労苦を多とすると後記にある。そして最後に，“三年に一度でも良い，『百舌鳥』続刊を発行したいものだ”，とのコメントがあった。それから幾星霜，遂に今日までこの願望は一度も実現が叶わなかった。

さて，昨年 10 月，箱根で ND9 同期会が開催された直後のことである。卒業後 50 周年となる記念すべき 2011 年に開催予定の ND9 同期会幹事をお願いすることになった宮浦君と川阪君に対して，谷口君から『卒後 50 周年記念文集』を発刊してはどうか，との提案が行われた。ご存知のように，我々は大学進学率がまだ一桁というエリート教育時代に学生生活を過ごしている。従って，卒業後もそれぞれの分野で大いに活躍し，一人ひとりが後世に残るような様々な物語をこれまでに多く経験している。これを後輩のために形に残したいとの強い希望もあったようだ。

このような提案を受けて，直ちに宮浦，川阪両君から賛意が表され，年明けて在阪のクラスメートが集い，50 周年 ND9 同期会の開催企画と文集発行について話し合ってくれた。その結果，文章を書くことにアレルギーがある人が結構多いことが明らかとなったが,同時に文集発行には大方の賛同を得たとの連絡を頂いた。こうして本格的に，提案者の谷口君が中心となって宮浦君，川阪君と共に文集編集案が練られ，小生もこれに協力させて頂くことになった。

以後，発行可能日を踏まえて設定された 6 月 11 日の原稿締切日を迎え，谷口君，宮浦君，川阪君それぞれの懸命なる働きかけの甲斐あって，どうやら発行できるまでに辿り着くことが出来た。編集 3 人のご努力に深甚の敬意を表したい。

最後に，この文集がいまは亡きクラスメートである　浅田，伊藤（泰），伊藤（芳），内山（旧姓・伴），増井，矢島各君の霊を慰める一助となることを心から願い，同時に，この文集を肴に本年 11 月 5 日・6 日開催の 50 周年 ND9 同期会が，母校を舞台として大いに盛り上がることを期待している。

文責：　田崎　三郎

2、アンケート

記念誌刊行の予備調査の結果、文集とアンケートの２本立てにしました。
アンケートは下記の内容で、出来るだけ多くの方に書いて戴くようにお願いしました。
しばらく振りに会った時に、「おい、どうしてた」と語り合えるようなアイテムを選び、あまり長くならないように定形としました。記入方法は、次の通りです。

＜記＞

（1）内容：｛必須記入事項｝は必ず記入、その他は　書いて戴ける項目のみ書いて戴きました。

①お名前　　｛年齢｝｛卒業時の講座名、先生など｝
②卒業当時のこと｛勤務先、勤務地、部門｝
③熟年期のこと　｛勤務先、勤務地、部門｝
仕事のこと、家族のこと、話したいこと、転勤、転職のことなど
④人生の大きな転機はありましたか、それは何でしたか？
⑤定年前後から現在まで｛リタイヤーの時期｝
⑥今の生活、仕事、日常何をしていますか？
⑦今後のこと
⑧その他、メッセージ、お薦めなど

（2）フォーマット：定形とし、各設問間の仕切りは、自由に動かして良いこととしました。

（3）記載順：原則的には、出席番号順にしましたが、長文を短文と組み合わせた関係で、順番がずれている場合がありますので、ご了解ください。（目次を参照ください。）

＜アンケート＞

＃	内　　容
①	**芦沢幸雄**　｛７３｝　｛第２講座　電気機器光野教授、畑講師｝｛府大オーケストラに所属｝
②	松下電工株式会社　大阪府門真市　本社　研究所
③	研究所４年、愛知県瀬戸工場１６年、三重県津工場１６年、定年。終始、主に製品開発研究、設計等に携わる。２９歳で結婚、子供男子２人。
④	入社当時、市場調査の折、研究中の製品について「待ち侘びている、これこれを要望する」と多くの人に言われ、開発意欲に火が点いたことを覚えている。概して平凡。
⑤	定年後１年間協力会社の製品開発の手伝いをしたが、細かいものが非常に見づらくなったので　リタイアした。
⑥	⑤以後は趣味三昧。沖釣り：真鯛、イサキ、深さ１５０m位から釣れるオコゼ、のどくろなど食べたい魚釣りが主。音楽：初心に戻りバイオリンの先生に師事し、勉強中。また楽団に所属し、市民音楽祭に出演したり、記念演奏会を主催したり、結構忙しくしている。ただ難聴が進み、楽しさも減ってきている。あとどれだけもつか？
⑦	今やっていることを出来るだけ永くやれることを願う。さらに、バイオリンより音の大きい木管楽器（例えばオーボエ）に挑戦してみたい気はある。
⑧	文集については、なんら持ち合わせていないので、辞退します。

#	内　　容
①	**石井　武彦**　７３歳
②	三菱電機　伊丹製作所　変圧器製造部
③	本社 　重電計画部 　情報システム部
④	オイルショックで国内の変電関連の仕事が激減し海外の仕事に就いたこと。 　重電関連の仕事から情報関連の仕事に就いたこと
⑤	メーカーでの経験を生かして、区役所の企業相談員として中小企業の相談に応じたこと 　NPO に参加し、街づくりに携わっていること
⑥	上記の NPO での街づくり
⑦	今後も NPO での街づくり
⑧	

①	**稲田　昌義、**　74 歳、　第３講座、　中村正雄先生
②	飯野重工業株式会社　舞鶴工場、　京都府舞鶴市、　電気設計課
③	入社した時の工場の場所と定年を迎えた時の場所は同じだが、社名、勤務地、担当業務の変更は数が多い。飯野重工業㈱、舞鶴　(2)舞鶴重工業㈱(社名変更)、舞鶴　(3)同、東京　(4)同、舞鶴　(5)日立造船㈱（合併）、舞鶴　(6)日立造船産業㈱（出向）、舞鶴　(7)同、大阪　(8)ﾊｲｼｽﾃﾑｺﾝﾄﾛｰﾙ㈱（新会社へ出向）、大阪　(9)同、東京　(10)日立造船㈱（復職）、舞鶴
④	前項、(9)の　ﾊｲｼｽﾃﾑｺﾝﾄﾛｰﾙ㈱、東京　の時、「退職」（全くの別会社への再就職）の話から急展開して、日立造船㈱、舞鶴　への「復職」となり、7 年後に定年を迎えることになりました。
⑤	舞鶴商工会議所から、日立造船㈱舞鶴工場へ、退職した技術者の紹介依頼があったが、該当者が見当たらないため、退職間近の私に話が来ました。日立造船㈱での定年は、60 歳になった月だったが、その 10 ヶ月前に退職して（平成 8 年 6 月退職）、新しい職場に移ることになりました。平成 8 年 6 月舞鶴商工会議所へ就職、14 年 10 月退職。
⑥	職には就いていません。植木の手入れと家庭菜園が主な作業で、健康維持のために、スポーツジムへ週２，３回通うのが日課となっています。
⑦	特に計画していることはありません。一人息子の三回忌を迎え、孫達の成人するのを、見届けたいというのが望みです。
⑧	健康であることの大切さ、有難さを実感しています。運動（身体を動かすこと）を継続して実行したいと考えています。

①	**小川　順宏**　　７３才　　電子・永見先生
②	日立電線　　日高工場（茨城県日立市）　　通信ケーブル設計部
③	３７年勤務中３０％の１１年が単身赴任（海外４年、国内７年）週休２日の国内であれば、帰省も簡単だが、イランの１年、スワジーランドの２年はきつかった。
④	転機などありませんが、こんな会社など辞めたいと考えたことは、１度ならずあります。
⑤	上記④のため、６０才の定年から１日たりとも延長する気なく、Ｈ９年１２月退職。 退職時は子会社の工事会社でした。　　定年後はゴルフ三昧のつもりでしたが、通風を患い、膝にきてしまったため、ゴルフは開店休業の状況で、会社の同期会で２年に１度くらいしかやっていません。 運動は従って２回／週　水泳をやっています。
⑥	庭の芝生をはがして畑にして、３～４年前から野菜作りをたのしんでいます。 海外旅行は最近、少々体力的にきついと感じはじめて、この２年近くご無沙汰です。
⑦	特に変わることはないとおもいます。
⑧	

①	**北野　雄一**　　74 歳　　第 2 講座　徳田助教授
②	東京芝浦電気株式会社（現 **株式会社 東芝**）　東京・本社・特許部
③	1963～**関西支社　技術部**　（上下水道設備等の総合エンジニアリング） 1967～**本社　電機技術部門**（化学プラント、公共設備、浚渫船電気設備、海洋開発、上下水道設備、ごみ焼却発電プラント、核融合電気設備、 防衛省潜水艦等の総合エンジニアリング、国家プロジェクト「大深度石油掘削装置の開発」、オゾナイザーの開発と商品化、個別形熱併給発電システムの開発と実用化） 1985～**本社　施設技術部門**（工場・ビル等の受変電設備、日本コージェネレーションセンター　委員就任、アドバンス・コージェネレーションシステム技術研究組合（ACT90）研究員に就任 印象に残った業務－シンガポール・チャンギー国際空港、エジプト・第 2 スエズ運河、韓国ソウル・ロッテワールドの世界最大規模コージェネレーションシステム、名古屋大学・核融合研究用世界最初最大規模の 125MVA 発電システム（オーム技術賞）等
④	東芝が電力会社への思惑により、コージェネレーションシステム(CGS)から全面的に撤退する方針を出したのを契機として、かねてから招聘を受けていた**新日本空調株式会社**に 1990 年に移籍したこと。以後、電気工学だけでなく、熱工学も含めた総合的なエンジニアリングを志向した。60 歳の定年をここで迎えた。
⑤	新日本空調時代に習得した熱工学も含めた総合エンジニアリング技術を活用するべく、1997 年に**日本環境技研株式会社**に移籍。各都市の地域冷暖房、成田国際空港及び中部国際空港の電源設備、刈谷市特定電気事業などの大型物件の調査･設計に従事。次いで**東京ガス株式会社**の技術顧問に就任し、東京ガス社員及び顧客に対する CGS の教育、セミナー及び大学での分散型発電システムの講義を通じて、普及と実用化を図った。また、電力業界との系統連系に関する協議を重ねた。詳細は文集に記載。すべての業務から完全にリタイヤーしたのは 2007 年。
⑥	併せて設立していた技術士事務所での下記業務の実施 ・東光電気工事から依頼された「JR 札幌駅再開発地域冷暖房」の指導監督業務。 ・金門製作所顧問に就任し、CGS の設計業務の指導及びオーストリア Jenbacher 社のガスエンジン導入等 ・アークトロン株式会社の設計業務、調査等に従事。 現在は特許事務所の依頼で、昔の杵柄を活用して特許申請業務を行っているが、暇な時間ができると年に一度程度のペースで世界各国へブラリと個人旅行をしている。これももう時間の問題。
⑦	1982－水腎症のため右側腎臓摘出手術、大量輸血 7200cc → C 型肝炎感染 2001－大腸がん手術 ← 津田君が命の恩人 2008－完全房室ブロックによる心不全で、緊急入院・ペースメーカ埋め込み手術 → 身体障害者 1 種 1 級 この 3 度の死に瀕した大病のため、健康には注意しつつ残された僅かな時間を大切に生きようと思っている。
⑧	「真面目に、強く、上品に」がモットー

①	**久保田　康平**　７３歳　電気工学第三講座（発送電講座）、益子教授・中村助教授・平沙講師
②	卒業後関西電力株式会社に就職。一年目は近畿支社にて、発・変電所、給電指令所、修理所、保線所、建設所などの現場実習。二年目は本店・工務部中央給電指令所にて三交代勤務での実習。
③	二年目に本店・工務部に配属されてから、「希望する課を提出しなさい。」ということで、「中央給電指令所以外ならば、何処でも結構です。」という書類を提出しました。 中央給電指令所は、瞬時瞬時の電力需給バランス調整の実施、全社的な事故時の復旧作業指令、各時刻毎の主要ポイントの電力需要実績の把握などの業務を一斑 7 名の三交代勤務で行う所でした。土・日曜日関係なく一日のうちの朝・昼・夜のいずれか必ず会社に拘束されていなければならず、これを回避するための希望を出したのですが、希望に反しキッチリと中央給電指令所に配属されてしまいました。夜勤明けで家に帰っても睡眠がとれなかったり、三交代勤務に身体を慣らすのに苦労したり、電話だけで状況把握しなければならないことなどに苦労しました。が、この経験により支店の電気課長に就任していった際など事故発生時にも迅速に処理する方針を出したり、具体的な復旧対策立案などに大変役に立ちました。「苦あれば楽あり」を地でいった思いでした。 もう一つ、現役時代の思い出としては、企業内教育に従事したことでした。 中学卒の人達を一学年１００人三年生まで計３００人（三年終了時点で通信制高校卒業と同一資格取得）と工業高校卒の人達４５０人を一年間全寮制で教育する関西電力学園で高等部・専門部主幹という役職を務めたことです。知・得・技を身につけさせることの難しさを痛感しました。特に、寮内での規律保持と学生同士及び職員（１２０人）と学生間の信頼関係を築くことには苦労しました。丁度、全社的にデミング賞取得に挑戦していた時期でしたので、全科目の指導マニュアルを作成するなど教育システム構築に努力しました。が、「教育」は、システム構築やマニュアルで行われるものではなく、「情熱」により行われ達成されるものであるということを体得しました。
④	人生の大きな転機としては、父親が脳血栓で余命３年・手術の成功率５０％と診断された時、手術を回避して余命を満喫してもらおうと決断し、父親と５ケ国・１３日間の欧州旅行に行ったことです。
⑤	退職後は、１０年余勉強してきたスペイン語を活用するため半年間スペインでの生活を体験したり、各種カルチャー（スペイン語、音楽、京都社寺の花めぐり、シルクロードに関する講義など）に参加したりしています。
⑥	今は趣味を満たすために行動しているだけで、他には何もしていません。
⑦	そろそろ幕引きをしても良いかな？と思っている今日この頃です。

①	**杉山　毅至**　（74 歳）　第三講座　中村先生
②	早川電機工業（株）　中央研究所　特許課　（現シャープ㈱）大阪市、西田辺
	同上　組織拡大　知的財産権本部となる。 息子　子供二人、（長男　平成 15 年脳卒中にて急逝）　（小生の人生は、ここで終わり） 平成 9 年　定年退職
④	昭和 44 年　弁理士資格取得　一生の仕事となる。
⑤	定年退職後　特許事務所パート勤務　70 歳で退き、弁理士登録抹消
⑥	夫婦 2 人暮らし、日常　特に無く、対外的には、一切出ない。
⑦	同上
⑧	同輩諸兄の健康を祈るのみ

①	**川阪 益造** {76 歳}　{電気４講座（電気材料）、吉田教授、河村助手（当時）}
②	立石電機株式会社　中央研究所　生産研究室～増加試作研究室　京都府長岡京市（当時は乙訓郡長岡町） 当時は、夕方以降は追いはぎが出るようなところで、女性社員は見送りが必要でした。
③	定年まで同社（1990 年からオムロンに社名変更）に勤務、部門：中央研究所及び電卓開発技術センター（長岡京市）、大阪支店（営業）、草津事業所（滋賀県草津市）にて、人権啓発担当。 家族のことでは、娘を 4 歳で、私の不注意から事故死させたことが痛恨の極みです。
④	オムロンでは、有名な部落地名総鑑事件で人権侵犯事件が起こり、それを契機として、人権啓発担当として人権問題について学ばせていただいたことで、今までとは違う価値観を知ることができた。 又、同社ではそれまで労組がなく、独自の労務管理が行われていたが、あるとき突如急進的な労組が出現し,その対応を通じて、人間的なつながりが重要ということに目覚めた。
⑤	オムロンからは、60.5 歳で定年退職したが、その後も、故浅田兄のお世話などでいくつかの会社でお世話になり、いまも現役同様な生活をしています。
⑥	現在は、京都電測株式会社で、品質管理などの業務を手伝っています。多少の休みはあるが、基本的にフルタイムで働いています。その他の担当業務は KES 環境マネジメントシステムの事務局、RoHS・REACH などの化学物質管理、輸出貿易管理など多様な管理業務を担当しています 未知の体験が有り、「日々新たなり」という心境です。
⑦	年齢的に体力・気力の衰えが目立つので、来年くらいには、今の仕事（勤務）をやめなければならないと思っています。そのあとは、やっと、余生を楽しむことができるかと思っている。 今までできなかった、散歩や健康作りにとりくみたい。そして、彼岸への旅立ちの準備もしなければならない。できれば、自動車部 OB 会の復活を宮浦兄らとともになしとげ、青春の思いを再び味わいたい。
⑧	人間以上に心を許せるペット（ともだち）を持つことがよいと思います。ただ、私の場合、17 年間連れ添そった愛犬（柴犬・メス）に先立たれ、今もってペットロス症状から抜け出せないでいます。

①	**田崎　三郎**（77 歳）　　第 6 講座　　指導教員：米田正次郎
②	光洋精工株式会社，大阪府柏原市，国分工場・電気課
③	60 歳ごろのことを指しているのならば愛媛大学，愛媛県松山市，工学部電気電子工学科
	これまでの短い人生のなかで、何度かありました。 ① 結核で肺切除し，ようやく学窓復帰できたこと（20 歳頃）， ② 光洋精工から大阪市大に移り，サラリーマンから教師になったこと（30 歳頃）， ③ 大阪市大から愛媛大に移り，幸運にも教授昇格への道が開けたこと（40 歳頃）
⑤	規定上の定年（65 歳）は愛媛大学で迎えたが，以後 74 歳まで松山大，広島國際学院大、尾道大でそれぞれ現役教授として務め，以後 74 歳～77 歳の間は尾道大の非常勤講師を務めた。 いまは河原電子ビジネス専門学校の顧問をしているが，公式には『愛媛大学名誉教授』及び『尾道大学名誉教授』と名乗っている。
⑥	郵政省・総務省，通産省・経産省，愛媛県，松山市、今治市，新居浜市等での情報化に関する仕事並びに電子情報通信学会や映像情報メディア学会などの学会での世話役を数多く仰せつかって来たが，これら公職は愛媛大での定年，さらには尾道大の非常勤の終了を期に殆ど退いた。 いまのところ，常設組織では四国情報通信懇談会会長（総務省）と愛媛県ネットワーク防犯連絡協議会会長（愛媛県警）及び NPO 法人愛媛県 IT 推進協会理事長を，テンポラリでは新居浜市地域ワンセグ推進協議会会長を残すのみとなっているが，時間的には随分と自由度が増えている。
⑦	今の予定では，現在持っている仕事は 80 歳になるまでにすべて若手に譲るつもり。その後まだ気力・体力・知力が残っているならば，これまでに色々と集めてきている膨大な各種の資料を整理し，これらをまとめてそれぞれ単行本に出来れば幸い，と思っている。
⑧	30 数年前にやった輸血で C 型肝炎になっていた。その感染が分ったのは 60 歳過ぎ。医師からは，その時すでに，最早寿命と病気のどっちが先になるかは分からないと言われており，以後，体に負担の掛かる積極的な治療は一切受けていない。ただ定期検診ごとに数値は悪化しつつあり，どうやら最近肝硬変に進んできているようだ。家族には，戒名要らず，墓いらず，葬式要らず（お別れ会を開くことまでは止めない），と遺言している。

①	**谷口　宏一**　72 歳　（誕生日に東日本大震災発生）　　第四講座（電気材料）　吉田教授、河村先生
②	東京芝浦電気（株）、名古屋工場、小型機器課（小型モータ応用機器） 第 6 志望では、先ずありえないと思って名古屋工場と書いたのに、配属が決まり驚いた。
③	家電機器の企画、研究、開発、工場技術管理、研究所管理などを手がけて来た。名古屋工場、川崎本社、横浜事業所、東京本社へと転勤、延べ 16 年間　東京地区（小向、宿河原に住む）で過ごした。 社外活動では、電機工業会、家電製品協会（家電製品リサイクル法制定時の設計委員長）や電気事業連合会（高調波問題など）で活動した。一方、都立大学で講師を 5 年間続けた。
④	次男を小学校入学後すぐに心臓手術で亡くした。この時に受けた会社の人々、近隣の方々や社会から受けた恩は多大だったのでお返しも含めて、夫婦で心身障害者の親御さんと一緒に地元に施設作りに着手、市民の 1 円玉募金から始めた。土地 3 千坪を提供された和尚さんや素晴らしい先生方にも来て頂いて、「まみずの里」が平成 2 年に完成、今に至っている。
⑤	56 歳で㈱東芝から東芝 AVE 社に移り、60 歳定年と同時に家を建て替えて犬山に戻る。一年間勉強して犬山市のエコアップ課（環境課）にて自然環境保護の事務局を 7 年間勤めた。その間、冊子「犬山の巨樹古木５０選」を纏めたり、子供達に自然体験を指導した。東京商工会議所のエコピープル資格も取得した。 息子二人が成人し、長男には高校一年男子と中学 1 年の女子がいる。三男は、昨年結婚した。
⑥	私が施設の理事、家内が後援会長として協力して進めている。施設や後援会の福祉のお店もあるので、大工、電気工事と電気製品修理（ともに資格取得）、決算などをしている。仕事の合間に、施設と自分の畑、木工工作などに精を出し、日独協会にも入った。昨年、施設に移管したが、イベントの企画と推進、時には、施設の食堂の配膳指導などもして来た。その間、名古屋大学に通い生命工学の単位を取得した。
⑦	心身障害者の親御さんや、指導の先生方が、日頃の心身の疲労を癒せるような場所が作れないかと場所探しやお金の工面をどうするかなどを検討している。
⑧	お勧め・・昨年 11 月にソーラーシステムを導入、半年で 14 万円（3000kwh）を発電した。毎日の発電量や消費電力の表示、発電開始と終了時の挨拶、1000kwh 達成毎に画面に上がる花火など楽しんでいる。

①	**津田　眞臣**　（つだ　まさおみ） 年齢：73　　卒業時：電気第二講座「電気機器」、光野重威教授、徳田精助教授、畑四郎講師（何れも当時） 卒業論文のテーマは、「水銀整流器によって運転される直流電動機の電機子電流の波形率」
②	勤務先：丸紅飯田（株）　現丸紅（株）東京本社，機械第一部重機械課　〔機械類の輸入がメイン〕 約４年半後からは鉄道関係の輸出/海外鉄道工事に従事し定年時まで続く
③	勤務先：東京に本社がある（株〕トステムズ（鉄道建設関係のコンサルタントで定年までの仕事の延長みたいなもの。但し丸紅との資本関係は無） 転勤：大阪に２年、インドネシアに２.5 年、ナイジェリアに２年、 海外出張：合計約 170 回、海外滞在日数；延べ 13.5 年余り　（一番長いのはアルゼンチンの約３年）
④	これといった転機はなく平凡にお勤めしました
⑤	定年から現在まで；64 歳の時にリタイアー。やりたいと思っていた事は色々あったが、殆ど実現せずに今まで来ております
⑥	今の生活；家でごろごろしているか、病院通いが殆どで、たまに旅行に出かけることぐらいかなー 仕事：３年前までは翻訳の仕事を家でやっていたが、今は完全に無職
⑦	今後のこと：先ずは健康を回復して、それからゆっくり考える積もり．いろんな病気をしたが，今一番よわっているのは腰痛。
⑧	その他：〔工学部を卒業して総合商社に入ることを検討している後輩諸君につまらぬアドバイス〕 小生の場合一番苦労したのは語学、特に英語であったが、それは晩年何とか並の文科系出身者に追いつくことが出来た。でもその時間がかかり過ぎたのは残念。　自分のやりたいことが殆ど自由に出来たのは、商社の最大のメリットではあったが、どうしても技術問題、特に、鉄道関係は、昔から得意でもあったので、上役と衝突することが多く出世には結びつかなかった。　語学には自信があるが、自分を抑える事が出来ない人にはあまりお勧め出来る職場とは思えないというのが現在の率直な考えです。

①	**出水　博造**　第二講座　　畑　先生　　秦　先生　徳田先生
②	勤務先：三井物産（株）　大阪支店勤務　機械部重機械課（1961 年 4 月入社）住金神戸川鉄の大手高炉鉄鋼会社と鉄鋼二次加工製造メーカ－向けの国内輸出入機械の販売、関連設備の技術輸入輸出商内を推進 1968 年頃迄 8 年間大阪支店で勤務
③	1969 年三井物産西独 Duesseldorf 本店に転勤、1974 年迄約 5 年間家族と滞在、大阪支店で担当した内容の商内と一般機械商内の日本向け輸出、三国間/ヨ-ロッパ域内での機械設備関連輸出入商内に従事。その間学友の田崎愛媛大教授が学会で来独、オランダ迄小生家族と観光ドライブを楽しむ。転勤により西欧州、当時の共産圏の東欧州各国を訪問（公私共）見聞を広める事が出来た。1974 年大阪支店同一部門に転勤、技術部を兼務、再度鉄鋼非鉄二次加工一般機械等の商内を展開。その間大阪堺市泉北高倉台に土地/購入住宅建築（1977 年）1983 年、家族同伴再度西独 Duesseldorf 本店に転勤、機械部門担当情報/エレクトロニクスＰＣ輸送機械（自動車、オートバイ space shuttle 機器、機建設機械等）担当約 5 年間滞在後、三井物産本店情報関連部門に転勤、その後本部の海外国内関係会社統括部門、1992 年東北支社（単身）勤務、支社全体の運営（東北６県管轄含）約 3 年滞在。1994 年本店情報産業本部に勤務、1996 年 57 歳で三井物産部長定年退職後、物産関係会社役員で６年勤務（パチンコ等のＣＰＵ設計会社）、2002 年退社。2 度目の西独転勤の際は、長男は大学受験の為日本に残し祖母と生活／長女は duesseldorf アメリカンスクール高校入学、同卒業後、関西大学入学と同時に大阪大学在学中の長男と下宿、我々夫婦は西独で子供達と別生活を経験。
④	三井物産就職約半年後、仕事内容が大学在住時に関連のある工学系の仕事に期待していたが全く違ったので畑先生に相談お世話になり、転職先内定-迄進んだ。その直前に同期親友の北野君から「石の上にも 3 年」結果をみて-結論を出してはとの advice により、結果的には転職せず定年迄幸運な生活を過す事が出来た。畑先生に迷惑をお掛けした。-北野君には非常に感謝している。26 歳で物産大学同期入社の女性と結婚。
⑤	第二の就職は６年間で退社。2002 年 63 歳でサラリーマン生活卒業、その後、約 7 年間は経営支援ＮＰＯ法人で中小企業の経営のボランテイア活動、一時期、在住のマンション（320 戸）管理の理事長、管理運営のボランテイアを継続、健康維持の為、ゴルフ/卓球/マジック/健康教室での体操/秘湯温泉巡り等で健康な人生を楽しく過すべく努力中。一方ＰＣで情報を入手、頭の体操にと株の投資など少し。（損失多し）
⑥	今後も上記⑤を持続（ＮＰＯ活動は 2011-3 月で中止）同期の山田稔/新岡/長谷川君達とはゴルフ 1 泊連荘ゴルフを年 2 回程。長谷川君/三井物産ＯＢ/小生 4 人で会社卒業以来約 10 年間、年 10 数回のゴルフを enjoy しています。娘夫婦の孫娘 4 歳と男子 1 歳が同一マンション内に在住故孫達の面倒にも忙しくしています。
⑦	上記⑥と同様。現在まで1回/約2年の海外観光旅行をもう少し回数を増やしたいと思っていますが？？？‥
⑧	出来るだけ体を動かして健康に留意し長生きできる生活をしましょう。

①	**波多野　博司**、　第 6 講座　　滝　教授、米田　講師　、　73 歳
②	松下電器産業、VTR の研究部門に配属
③	VTR の拡大に伴いあらゆる部門を担当。　開発、設計、製造、生産技術、工場展開、安全規格、輸出関連業務、海外駐在、営業技術 etc,etc 帰国後、環境関連技術、JACD へ出向、65 歳にて退職。
④	S42 年 1 月家内が腸間膜ノウ腫で死んだこと。　医者の手落ちでは無いことを知って欲しいとのことで、手術室へ。　母親から「医者が見放したのだから、創価学会の題目をあげなさい。」と言うことで、朝まで題目をあげたら生き返った。これが、創価学会に入った動機。
⑤	母親（現在 98 歳）が一寸おかしくなった（ボケてきた）ので、65 歳で仕事を止め、母親のヘルパーをしている。ずっと・・・・・。
⑥	今は、午前と午後に母親（今も独居）のところへ。　食事の段取り、薬のだんどり等に文字通り毎日。 ストレスがたまってきて、こちら（自分）の方があぶない。
⑦	先に母親を見送ること。 （なんとまあ　小さな、狭い考え方なのか。　でもストレスでこんなことしか考えられない。）
⑧	母親の介護をはじめてから、非常に世間がせまくなったと言う感じ。 何事にも興味を感じなくなった。　創価学会はずっと続けている。やめない。

①	**長谷川　正彦**　　第 2 講座　　畑　四郎先生
②	**東京芝浦電気株式会社　府中工場　設計部**　（東京都府中市 ） （現　株式会社　東芝）　　製鉄所向け制御装置の設計に従事
③	**東芝で広範囲の事業に携わった。府中工場 25 年、本社 16 年余。** 2002 年 11 月 30 日定年退職。
④	**入社 2 年後に海外の鉄鋼プラントのシステム構築に携わったこと** それ以降、海外関連の仕事をやることが多くなり、現地に駐在はしなかったが、海外出張が多く、多忙を極めた。（この間毎年、海外出張していて同窓会に出られず失礼しました）
⑤	**2002-11-30 リタイヤ。2003-5 月名古屋に転居。** パソコンと新幹線を活用すればどこに住んでいても同じ。関東での趣味のゴルフを継続。 若い人を育ててバトンタッチするという信念でやってきたので、仕事の事には一切口出ししないようにしている
⑥	**趣味を楽しむ毎日。** ゴルフ、ドライブ、園芸、パソコン スポーツ（ゴルフ、野球、サッカー、ラグビー等）のテレビ観戦 歴史ドキュメント、世界遺産などを紹介するテレビ番組の観賞
⑦	**ゴルフ、ドライブを卒業したら、囲碁を楽しむ予定。** 臨機応変にやっていきたい。
⑧	**日本全体が合理性を重んじ、理念を持って行動できるように変わることを期待する。**

①	**林　常雄**　（１９３６．５．８生）　大阪府立大学電気工学科通信コース　第４講座　　石崎教授
②	１９６１年　松下電器産業（株）ラジオ事業部（門真市）に入社
③	１９８８年　松下電器産業（株）オーディオ事業部より本社中央研究所に転出 １９８９年　本社中央研究所より基盤情報（株）に出向 １９９１年　本社中央研究所より大阪ｾﾝﾄﾗﾙｹｰﾌﾞﾙﾈｯﾄﾜｰｸ（株）に出向、１９９６年に定年退職 １９９６年　（株）関西テック（大阪市）に入社、２００１年に定年退職
④	特にありません。 良き妻と二人の息子に恵まれ、それぞれがまた良き妻を娶り、孫も四人と恵まれた環境の中で平々凡々と過ごさせて頂いております。
⑤ ⑥ ⑦	人様に迷惑をかけないよう自身の健康に留意して毎日を過ごすように心掛けております。 少なくとも週に一回は海に出て、ヨットのセイリングを心掛け、心身の鍛錬をしています。
⑧	異体験のヨットセイリングを希望されるならご一報を。

①	**福田　武久**　７３歳　　卒業時の講座名　第六講座　滝教授
②	松下電器株式会社　照明器具事業部　勤務地大阪府河内市
③	照明器具事業部→電池工業株式会社→松下電器退社→パナホーム株式会社入社→松下電器特機営業本部入社→情報システム営業本部→衛星ケーブルテレビ事業本部。定年。
④	松下電器を途中退社してパナホーム株式会社に入社，３日間務めたが、松下電器の専務の要請で再び松下に再入社したこと。技術畑から営業に転身したこと。
⑤	定年から現在まではいろんなことをしてきました。ＣＡＴＶ会社の顧問や、自分で会社を興したりしてきました。 　昨年になってようやく仕事から身を引きました。
⑥	今少し仕事をして過ごしています。それといろんな医者に罹っていることでそれなりに忙しいです。
⑦	特になし。
⑧	

①	**宮井　彬文**　　年齢　73 才　　卒業時の講座第 1 講座
②	丸善石油株式会社　　勤務地　和歌山県海草郡下津町（現在海南市下津町）電気課　配電係
③	昭和 36 年～5６年まで同社下津製油所　　田舎で永く居すぎた。 昭和 56 年から平成 3 年年まで白島石油備蓄（株）（国家石油備蓄）本社（東京）並びに北九州（若松） 電気以外に土木の仕事も　約１０年単身赴任　　この間に長男が急逝する。 平成 3 年～平成 7 年千代田化工（株）の子会社千代田計装（株）出向、55 才で転籍
④	特になし、あえて言えば　狭心症を患い千代田計装（株）を退職　家の近くの自動車部品を自動車に取り付ける会社で 60 才までの 3 年間働く。
⑤	61 才から 71 才まで関西電気管理技術者協会に加入し、電気設備管理事務所を設立し近隣の高圧受電設備の管理業務を受託　　役１0 年間 　近くの公民館のお手伝い・市議会議員の後援会長・その他青少年補導委員などの社会奉仕 　農協の非常勤理事 6 年間
⑥	農業のまねごと（収益なし） 　老人会のお世話・小学校支援活動などの奉仕 　文化財研究会に加入し神社・寺などの文化財見学など
⑦	今の続き
⑧	なし

①	**宮浦　昭太郎**　　76 歳　電気 4 講座　吉田教授、河村先生
②	明電舎から誘いを貰いましたが、家業の宮浦製作所（ガス溶接器具製作）入社
③	溶接の技術がガスから電気に移行し始め入社数年後にガス溶接器が不要に、日本電装の依頼で自動ロー付機を開発、クーラーメーカー各社に納入した。業績確保のため副業のつもりで金属プレス加工業を開業したが、嵌まりこんでしまい、本業に戻れなかった。
④	㈱宮浦製作所　機械部を棄てて、宮浦工業株式会社を設立したこと。
⑤	４０代後半のころ、高校時代の恩師に「人の 3 倍の人生を送るんだね。」と言われたことがある。今　振り返ると名言だった。仕事のこと、家族・親族のこと、趣味･技能・遊びのこと、喜怒哀楽・波乱万丈の時を過ごしたと思う。その分、妻に苦労をかけたことだろう。
⑥	昨年 4 月から長男家族が戻って来て同居、賑やかな毎日ではあるが大変だ。家内と二人で詩吟教室を開いている。家内はヨガ、私は太極拳とグランドゴルフを週一回。
⑦	人生の最終章に突入したようだ。家内と二人の余生を考えたり、仕事のことを含めて身辺整理を考えたりするようになった。家内と二人で旅することを心がけていきたい。
⑧	

①	**森田　徹**　７５歳　第６講座　守口信雄先生　六島先生　研究テーマ：アイソレータの技術文献調査
②	三洋電機入社　大阪府大東市住道　精器工場技術部開発課（電子部品事業部）勤務 （勤務地は異なるが、田中博君と２名入社）
③	技術部に配属してオールトランジスタートランシーバーの開発、ディスクターレット式 TV チューナーの開発、モーショナルスピーカーシステム（電気回路からスピーカーの駆動部まで含めて負帰還をかけて忠実度の向上を図る）開発等を５年間、偏向ヨーク（ブラウン管の電子走査を精度良く偏向させる）の開発、設計と量産設計及び品質管理を定年直前まで。不勉強であった磁気学の応用なので苦労しました。当時の偏向に関する文献は余りなく唯一 NHK 総技研の文献の「ブラウン管における電磁偏向の実用解析」を参考に日夜没頭して仕事一本でやってきました。現在は映像表示装置の大革命が起こり、ブラウン管から液晶化で偏向ヨーク完全不要となった。
④	人生の大きな転機として大きく感じるところがないのですが、あえてゆうなら一人前になる為の条件である結婚して一家を引き連れた生活責任が始まったことです。
⑤	定年後の初年度の一年間は仕事から解放された気持ちもあって、全国をドライブ旅行していましたが、 やはり何か一日の内、数十%位は緊張感を持つ時間がないと虚無感を感じたので２年目から縁もあって関係会社に現役時代の経験を生かした偏向ヨークの生産管理と設計顧問の仕事(３日勤務/週)を業界の液晶の進出で不要となるまで６年間務めた。続いて現役時代の開発設計、量産設計の経験を生かして欲しいとゆう中企業からの要請があって研究開発室に入って３日/週の勤務で７年間務め、７５歳になる直前で今後の体調を考え今が退け時と感じ、完全リタイヤーした。
⑥	完全リタイヤーしたばかりであるが、NHK 文化講座の中から郷土歴史実地講座、社会見学、古建築の受講とゴルフを適当にしている。
⑦	今後は地元で郷土ボランティアー活動をしていきたいと思っている。
⑧	現在は就職難時代だが、何事も基礎学力を身につけ、現役時代に種々経験する中で広く物作りの知識を培っていく努力をしていれば、定年退職後の再就職のニーズは有るものだと知る。異分野でも IT 利用で可成り知識を得ることが可能で基礎知識があれば有る程度理解できる時代である。

①	**保田　誠也**　75 歳　電気理論　（自動制御） 　藤本先生の指導の元に「多変数制御」について文献調査
②	丸善石油　下津製油所　工務部　(計装保守) 　腰道具をつけて、所内石油プラントの計装設備　及び　付属する計器類の点検補修に走り回りました。
③	（出向）関西石油　建設部　（堺製油所　建設のための調査、調整、工事監理） →関西石油　堺製油所　製油部　（計装保守） →丸善石油　大阪本社　システム部　（システム開発、プログラム開発） →（出向）　大同電気工業　施設部　（プラント電気計装工事　全般業務） →（出向）　関電興業　火力部　（ワープロシステムの取纏め）　（コスモ石油　定年退職） →（再就職）　マイスター６０　人材派遣会社　（非破壊検査　現場作業、安全担当） →（再就職）　大阪ナショナル　（松下通信工業）　（和歌山県警　交通管制システム　工事監督）
④	大同電気工業に出向のときが転機だったと思います。石油業から建設業への転身で、仕事も未経験のことばかりでしたが、建設業の本質を味わうと共に　非常に勉強になりました。
⑤	大阪ナショナルの退社が６５才で、その後、前に居た大同電気工業に呼び出され、NTT の携帯電話基地局の据付工事、手伝い等を最後にリタイアー、農業を主とした生活になりました。 ヒマなときは、長男の住む九州方面へ、旅行もしました。
⑥	昔と変わらず和歌山にて過ごしております。 日頃は、畑で野菜作りです。たまには、家内と近郊、近県に出かけ街角散歩、遊山を楽しんでいます。
⑦	残す人生も少なくなり、身辺の整理と晴耕雨読の生活で人生を終わらせたいと思っています。
⑧	なし

①	・**山田　稔**　{73 歳}　　{第 2 講座　卒論指導教官 畑　四郎先生(当時講師)}
②	・<u>勤務先</u>：株式会社日立製作所 ・<u>勤務地</u>：日立工場大型電機製造部（茨城県日立市）
③	・<u>勤務先の変遷</u>：㈱日立製作所大型電機製造部(15 年間在籍)⇒同ﾀｰﾋﾞﾝ製造部(10 年間在籍)⇒日立ｴﾝｼﾞﾆｱﾘﾝｸﾞｻｰﾋﾞｽ㈱(10 年間在籍)⇒㈱日立製作所火力建設部(5 年間在籍)・・・・・発電機並びに蒸気ﾀｰﾋﾞﾝのｴﾝｼﾞﾆｱとして活躍し お陰様で ﾌｨﾘﾋﾟﾝ、ｶﾅﾀﾞ、米国、ﾅｲｼﾞｪﾘｱ、韓国、ｼﾝｶﾞﾎﾟｰﾙ、ｱﾙｾﾞﾝﾁﾝ、等諸外国の生活も経験できた。 ・この間 工場内勤務の他、(関電)春日出火力発電所 2 号機、(同)堺港火力発電所 1 号機、(同)相生火力発電所 3 号機、(韓国電力)平沢火力発電所 1,2 号機、(電発)仁尾太陽熱発電所、(東電)鹿島火力発電所 6 号機、(東電)姉ヶ崎火力発電所 6 号機、(東電)新千葉発電所 3 号機(ｺﾝﾊﾞｲﾝﾄﾞﾌﾟﾗﾝﾄ)の建設を担当した。 ・昭和 41 年結婚　1 姫 2 太郎に恵まれる。現在 孫 3 人、7 月に 4 人目誕生の予定なり。
④	・人生の転機 1 回目：小 6 年生の時　体調不良、野球少年の夢破れる。 ・人生の転機 2 回目：某国立大学に挑戦するも 1 点差で不合格、大阪府立大学電気工学科入学。 ・人生の転機 3 回目：㈱日立製作所に入社、日立市に住み　良き伴侶に巡り合えたこと。
⑤	・63 歳で退職後 茨城ｷﾘｽﾄ教大学聴講生(2 年間)、「ゆうゆうｶﾚｯｼﾞ」(2 年間)を受講、この間知り合った仲間と「ﾊｰﾓﾆｶ合奏団(1 回/月 慰問演奏会実施)」「ﾊｲｷﾝｸﾞ」「詩吟」「民謡」「葡萄農家のﾎﾞﾗﾝﾃｱ・・ﾜｲﾝ作り」「ｺﾞﾙﾌ」「料理」等の行事を続けており、又 1 回/年程度「カミさん」ｻｰﾋﾞｽとして国内・海外旅行を楽しんでいる。
⑥	・現在は体が動くので上記の如く出歩くことが多いが、今後の事を考え室内でも出来ることをと思い 最近「木彫」を始めた。作品ができるというのは楽しいものです。
⑦	・近々4 人目の孫が生まれるし、又 先日のドックの結果でも致命的なところもなく今が一番幸せなのかもしれないと思う今日この頃です。(先日の東日本大震災で日立市で震度 6 強を経験しましたが、幸い被害もなく無事でしたが、福島の原発の 今後の動向がやや心配ではありますが・・・)
⑧	・北関東に住んでいるため中々皆さんとお会い出来る機会が少ないのが残念ですが 唯一 長谷川、出水、新岡氏と 1 回/年ゴルフを楽しんでいます。元気にやっていますので 今後ともよろしくお願いいたします。

①	**横松　丈志、**　　74 歳、　　第４講座、吉田　浩二先生
②	株式会社　島津製作所　精機事業部　五条工場　電機部　（京都）
③	会社での前半の約 18 年間は、上記工場技術課で高／低周波誘導、誘電加熱、非破壊検査などに係わり、主に鉄鋼メーカー（新日鉄、川鉄、住金、神戸製鋼）巡りをしたが、入社以来ずっと赤字続きの工場で、事業部自体が消滅した。 後半の約 18 年間は、航空事業部（京都）に引き取られ、自衛隊の戦闘機やヘリコプター、ボーイングの民間機の電気／機械（試作）部品の量産前の実使用耐久試験の実施や、その成績書の作成（品質管理）等で、自衛隊、三菱重工、川崎重工やその関連会社に出入りした。その間にも、最近少し注目されだした工場施設内での食物栽培や種子島の H2 ロケットにも少し関係した。
④	府大受験の一年目に、金属工学科から合格の連絡を受け、某教授に面会をお願いし、卒業後の就職先を聞いたところ、「運が良ければ、新日鉄などの大手、悪ければ町の鋳物やさん」と言われ、「やはり電気に再挑戦します。」と断念し、2 浪もして電気科を出たのに、18 年間も金属メーカに係わるのであれば、金属工学科に入学しておけばと、考えることがある。 しかも、川鉄水島工場で固着式層間マグナ（探傷機）に係わって、半年間悪戦苦闘の末、装置の大半を引き揚げる羽目になり、事業部の解散とも重なり、私の会社人生は終わったと思った。しかし。金属工学科に入学していれば、皆さんとはお会いできてないとも思う。
⑤	定年 60 歳を目前に、島津総研新設の計画があり、特許手続き事務の誘いを受け、65 歳まで直下請けをした。その後は、全くの無職の状態である。
⑥	サンデー毎日の状態で、昨年夏以降腰痛が酷くなり、家内に追い立てられながら、週２～３回程度は川辺を散歩して水鳥等を観察し、週末はプールに通っている。
⑦	数年来、96 歳の半認知症の母親に係わっていて、10 年間程遠出が出来ていないので、出来ればジムに通って節制して、旅行をしたいと願っている。
⑧	

①	**吉田　哲郎**　　（７２歳）　　（卒論：　第 2 講座　秦常造教授）
②	（株）日立製作所多賀工場商品設計部機械設計課開発係配属（茨城県日立市）
③	‘61/4-‘68/3:上記②（業務用ドライクリーナーの設計に従事）、‘64/5 結婚、’65/6 長女誕生、’67/4 長男誕生 ‘68/4-‘71/4:ドイツジュッセルドルフ駐在（技術アッタッシェとして技術情報の収集に従事） ‘71/5-‘80/3:多賀工場にてポーランドへのモーター製造プラント輸出取り纏め ‘80/4-‘84/4:香港に日立工業機械（香港）有限公司を設立し社長として駐在 ‘85/5-‘07/2:日立製作所の系列会社日本サーボ（株）（本社：東京都千代田区神田、主工場：群馬県桐生市）に移り、海外業務統括を担当
④	‘87/7 交通事故に遭い、右脚骨折 2 か月の入院。退院後リハビリに山登りを始めた。登山は高血圧症にも良いので、自然と親しむ登山が趣味となった。
⑤	‘99/2 満 60 歳で定年となるも、そのまま引き続き安全保障輸出管理を主とした海外業務統括担当を続け、‘07/2 満 68 歳でリタイヤーした。 リタイヤ―後は完全に仕事を離れ、夫婦二人の年金生活です。 子供二人にそれぞれ二人づつ計 4 人孫ができた。現在、一番上は高２女子、一番下は小５男子です。
⑥	夫婦で山登りなどをしているが、趣味は野鳥、野草、昆虫、野生動物にも興味が湧いて双眼鏡や拡大鏡で観察するとともにカメラに収めて気に入った写真をアルバムにしています。自分で撮った花鳥虫獣の写真に、それを詠んだ古来からの俳句、和歌、詩歌、漢詩、唄などを見つけて、一緒にアルバムに貼り付けて楽しんでいます。
⑦	今まで入院手術をしたのは④の交通事故以外にもいろいろあり、現在も病気を抱えておりますが、私の今後の生活は、妻と二人で、体力の続く限り、自然と親しみ、悔いのない人生を全うすることです。雨降れば雨を楽しみ、晴れる日は晴れを楽しんで過ごしていきたいと思います。
⑧	人間は他の動物と同じく、この世で生まれ、結婚して子供を作り、死んでいくというのがその一生ですが、卒業 50 周年を振り返ると、遠き昭和のまぶしい時代を懐かしく思います。同期の皆様のご健康とご多幸を祈ります。

①	**名前：渡士龍文**　　卒業時の講座：第５講座 指導いただいた先生：児島先生(当時：工業短期大学部助教授、のちに工学部教授)
②	勤務先：株式会社　日立製作所　日立工場　　勤務地：茨木県日立市 部門：制御盤設計(圧延機用制御盤の設計に従事)
③	a. 勤務先：株式会社 日立製作所 亀有工場　　勤務地：東京都足立区 部門：鉱山機械設計(鉱山機械用電気制御取りまとめ業務に従事) b. 勤務先：株式会社 日立製作所 土浦工場(列島改造論に基づき工場移転)勤務地：茨城県土浦市 部門：制御設計(自動車用・車両用試験機の制御設計業務に従事)　その後品質保証業務に従事 c. 勤務先：日立ﾋﾞﾙ施設ｴﾝｼﾞﾆｱﾘﾝｸﾞ株式会社(日立製作所の孫会社)　　勤務地：東京都千代田区 部門：品質保証本部(品質保証業務に従事)
④	なかったと云えばなかったし、あったと云えばあったと言える。あったとすれば、それは結婚であり、定年ではないだろうか？
⑤	満60歳になって定年退職後８ヶ月経ってから、定年退職時勤務していた日立ﾋﾞﾙ施設ｴﾝｼﾞﾆｱﾘﾝｸﾞ㈱の取締役の斡旋により同社の子会社であるｴｲﾁ･ﾋﾞｰ･ｲｰ･ｻｰﾋﾞｽ㈱へ就職することができた。 その後日立ｸﾞﾙｰﾌﾟ内の系列会社見直しがあり業務移管により㈱ﾋﾞﾙﾃｸﾉｽに転属したが、現在も勤務し続けている。最初はﾋﾞﾙの設備管理の業務に携わり、その後ﾋﾞﾙの各部屋の電気・水道ﾒｰﾀの検針・料金の分配計算・請求書発行をする業務に携わっている。
⑥	仕事は⑤項の通り続けているが、趣味としては就職と同時に始めた尺八を現在も続けており、所属している団体(新都山流・千葉県三曲協会・松戸市三曲協会など）のﾒﾝﾊﾞｰとの交遊を通じて社会との接触を図っている。
⑦	前⑥項のように７４歳になった今日までｻﾗﾘｰﾏﾝ生活を続けてきたし今後も当分は続けたいと考えていたが、今年の４月に妻が脳梗塞を患い今後介護が必要となって来たのを機に９月には退職を予定している。妻は既に退院し後遺症は非常に軽いが、今後はﾘﾊﾋﾞﾘを続けなければならず、どの様に生活をしていかなければならないかが現在ではわからず、 様子を見ながらどのように生活していくかを考えなければならない状況である。

以上

＜卒業当時の先生方＞

アンケート①を見ながら、先生方のお顔を思い出してください。

３、文集

事前アンケートでは、特定のテーマで全員の皆さんに書いて戴くような設問でした。アンケートの結果を受けて、「自由参加、自由課題とし、文章以外の写真や絵画も投稿して戴く。」ことで　お願いしました。

テーマの自由度を広げましたが、読み易くするためのフォーマットの統一とページ上限（2 ページ）の設定をさせて戴きました。

それぞれに、ユニークな内容をお読みください。

１、徳田先生と中小企業　～徳田先生の想い出　　石井　武彦

徳田先生はよく中小企業での経験を話されていました。先生が勤務されていた中小企業が倒産し、その都度新たな中小企業に移られたとの事です。

私にとって中小企業とは外注先としての関係のみで、徳田先生のような経験はありませんでした。

しかし、定年退職後に、区役所の企業相談員として中小企業と付き合い始めて中小企業に対する考えが変わりました。

中小企業のオヤジは職人だと云う事です。

中小企業の奥さんから次のような事をお聞きしました。ご主人は旋盤加工については誰にも負けないが、65 歳を過ぎてからはご多分にもれず仕事が殆ど無くなり廃業したのですが旋盤は廃却せず、家族が廃却を希望しても聞き入れませんでした。しかし、正月の朝にご主人が旋盤の前でお神酒を供えて「家族を支えてくれて有難う」と拍手を打っているのを見て、旋盤を廃却して欲しいと云えなくなってしまった。これが職人と云うものでしょう。

また、中小企業は家族的と言われるが、次のような事もありました。

婦人服を縫製している企業で、ベトナム人を雇っています。ボートピープルで仕事が一人前に出来るようになるとベトナムから家族を呼び寄せることを外務省と交渉し成功しました。相当強力に要求しないと認許が下りないそうです。中小企業は家族の面倒もみて家族的と言われる例です。

また、ベトナム人は我慢強く、風邪を引いても精神力で直してしまうとの事です。現在では戦力として無くてはならなくなっているとのことです。

このような話を聞くと徳田先生の云われていた事が思い出されます。

以上

（２）煙草について　　稲田　昌義

Ⅰ　煙草との付き合い

二十歳になると、それが大人になったことの「証明」だとばかり、タバコに手を出した。最初のタバコの銘柄は「パール」だと思うが、「ミルク」の味がした。美味しいと思った。それ以後、「今日も元気だ、タバコがうまい。」という宣伝文句に共感し、吸い続けたが、二度とその美味しさには出会うことがなかった。学生時代にはタバコにのめり込んだ。煙草販売店に掲示されていたポスターの、日本専売公社の全製品にチャレンジし、全てを口にしたと思っている。手に入り難かったのが、「ゴールデンバット」と葉巻の「アストリア」であった。特に「アストリア」を購入できたのは、心斎橋筋の煙草販売店１箇所しか知らない。販売店に何度となく足を運び、殆んど振られた。何回かは手に入れたが、葉巻の本当の旨さも楽しみ方も、理解できないままである。学生時代の常用は、「いこい」であった。

就職してからも喫煙は続き、決別に近くなった頃は、「ピース」のフィルター付きが多くなり、１日４０～５０本、それにパイプを日に２服位。パイプに葉を一度詰めると、１時間位は燻らせる事が出来た。これで身体に良いはずはないが、健康状態にはこれと言った故障はなく、舌が慢性的にひりっとしている程度であった。

Ⅱ　禁煙

喫煙は昭和３１年頃から２５年間続けた。禁煙などということは全く眼中になく、一生涯、止めることは出来ないと思っていた。

昭和５６年のある日、会社で昼休み前に、朝から吸い出した２０本入りの「ピース」が無くなってしまった。昼休みに買おうと考え、しばらくは我慢をした。休憩時間になったが、どうも買いに行くのがおっくうだし、少し我慢も出来そうなのでそのまま吸わずにいた。２時、３時と経過する内に、「吸いたい」という気持ちが強くなってくる。「よし、家に帰って、夕食後には、思いっきり吸ってやろう」と我慢を続けていると退社時間になった。帰宅後、夕食の後にもあまり強くはタバコを欲しいとは思わない。よし、またいけるとこまで我慢してやろう、で翌日になった。

どこまで記録を伸ばすことが出来るのか、と我慢を続ける。午後２時頃に、顔が火照り、こめかみが痛くなる。これが禁断症状というやつかと、少しは自分自身の身体の変化に興味が出てくる。「タバコを吸いたい」という気持ちは、１日に数回やってくる。我慢をしていると、すっと弱まることも覚えた。顔の火照りと

こめかみの痛さとは３日続いた。そのうち症状が変わってきた。自宅のカーテンに染みついたニコチン臭さに我慢の出来ない不快さを覚える。家内にすぐ洗ってくれと頼む。車の灰皿しかり。どの部屋にもあった灰皿も、全部姿を消した。

会社の事務室では、吸いかけて灰皿の上に置かれたタバコの煙が、鼻に入ると猛烈な痛さを覚える。「消してくれ」と、つい大きな声を出してしまう。

こんな、タバコの煙と臭いとが、いやでいやでたまらず、生理的な痛みと不快さとを我慢することができない状態が約１週間続いた。全く予想もしていなかった経験であった。

禁煙に成功したある先輩から、「もうタバコとは断絶で、一切吸わない、などと決めつけず､何時でも吸えると考えていた方がよい。」とのアドバイスをもらった。これを参考に、取り敢えず１ヶ月辛抱することとした。１０月１日に始まったので、１１月１日を解禁日に決めた。その日に吸えることを楽しみにすると、止め続けることが出来たのである。後で考えると、自虐行為を楽しんでいる様なところがある。

解禁日にタバコに火をつけた。３１日間のブランクで、全く不味いものになっていた。できるだけ軽いタバコを机の引き出しに入れて置き、どうしても欲しくなった時に、口にすることにした。

タバコの本数は極端に減ったし、ニコチンの量はもっと減ったと思う。禁煙者にはなりきらなかったが、「減煙」をすることは出来た。

１年後に、「１周年記念」と銘打って、再度「１ヶ月禁煙」を試みた。１年前の苦しみは無く、また吸えることを楽しみに、「１ヶ月禁煙」は成功した。それ以降は、かなりの「なまくら」になった。

その頃は、おやつにすぐに手が出たり、ガムを口に入れたがる傾向にあった。タバコは食欲を抑える効果があるし、タバコを吸っていたことで胃が悪くなっており、口が卑しくなっているとの自覚症状はあった。「１周年記念」の翌年の７月末に、喉を少し痛めたせいもあり、どんなタバコの煙も受け付けなくなった。また、「禁煙」に入った。この時は、「口が寂しい」というのが無く、あまりおやつも欲しくはなかった。

１ヶ月半の間、１日に数回「タバコを吸いたい。吸ってみようかな。」との誘惑がやってくる。それぞれの時間は短く、少し我慢をしていると、誘惑は弱まる。９月の中頃この誘惑が、フッとこなくなった。全くである。９月の終わりになって、「これで禁煙は成功した」と実感した。「タバコを吸いたいという気持ちが、全く起こらなくなった。」のである。

以後、２８年経った。　　おわり

（３）マッターホルン　　小川 順広

文集に投稿するほど文才はありません。

スイス側マッターホルン麓のトレッキング時の写真（2004年2月撮影）です。

旅行された方も沢山おられることと思います。

（４）吉田先生の思い出 宮浦 昭太郎

在学時に電気機器の効率は 90%を超えていた。「未知の材料が現れない限り新しい機器は作れない。」と力説された徳田先生の言葉が、未曾有の進化を知らされるたびに脳裏をかすめます。

そんな時代に、吉田先生は半導体と電子写真の素材を探しておられました。その材料が今を支えています。私の研究室での印象は物静かな先生でしたが的確なご指導が時々飛んで来ました。（財）応用科学研究所の理事長を務められ電子写真を始めその業績を称えられて勲三等瑞宝章を受章されました。

＜勲三等瑞宝章　受賞祝賀会＞

謝辞のあと「ダイアナ♪」をご披露されたのは驚きでした。

（5）東日本大震災と電力供給について考えること　　北野 雄一

2011 年 3 月 11 日の午後 2 時 45 分頃、所用のために自宅玄関を出た途端に今までに経験したことの無い大地の揺れに出くわした。この直後に長時間停電が発生し、寒い夜を震えて過ごすことを強制された。TV も役立たず、携帯ラジオで情報を収集すると、M9.0 の大地震であったこと、東北地方の広範囲に亘って津波が押し寄せ、壊滅状態となっていることが分った。その後の経緯についてはご承知のとおりである。

翌日からは計画停電とやらで、細切れ・長時間の停電に直面した。東京電力の情報では、できる限り独立発電事業者 IPP から電力を購入して、この計画停電を早く解消したいとかを伝えていた。しかし、福島原発が停止したことにより電力バランスを崩したということは、国家としてのエネルギー政策や、電力会社の今までの傲慢な方針によるところ大であり、当然起こるべくして発生した状況だと考える。1980 年代から所管官庁及び電力会社と産業界は電力自由化に関して激烈な議論をしてきたが、結局骨抜きになってしまった経過の一部分を記載したい。

1976 年にドイツのマンハイムで分散型発電システムが世界で始めて実用化された。ドイツでは BHKB（熱併給発電）と呼ばれているが、この技術内容は東京ガスの情報網を通じて直ちに入手できたので、東京ガスー東芝・電機部門で共同開発を進めることにした。しかし、電力供給に関する最大の問題点は、わが国の電力会社は地域独占、発送配電が分離独立していないという先進国では例を見ない競争原理が働かない形態であり、国民は電力会社を選択することは出来ず、国際価格の 2 倍以上の電力料金を支払っている点である。1980 年代に入ると、欧米各国の電力自由化の波がわが国にも押し寄せてきて、コストダウンに汲々としてきた産業界は更なるコスト削減のために電力料金の削減を目指して電力価格に目を向け始めた。

コージェネレーションシステム CGS が注目されるようになったのは、丁度この時期に当たる。CGS は電力と熱を同時に生産するので、発電単価だけを見ると約¥7~10/kWh 程度、回収熱の価格を考慮するとさらに低減する。産業用電力価格をフラットレートで見ると、約¥20~40/kWh であるから、電力料金は直ちに半減以上のコストダウンが実現する。CGS が経済的効果を示すためには、発電した電力と回収した熱量を 100%利用出来なければ効果が十分ではない。しかし、夜間は電力消費が少なくなり、また冷暖房の必要が無い中間期には回収熱量を使用できない。これを解決するためには、欧米と同様に CGS を電力会社の系統に連系し、余剰電力を系統に逆潮流させ、適切な価格で電力会社に購入して貰うのが最も効率的で、且つ省エネに寄与するはずである。

この時点で電力会社が示した方針は、電力会社以外のものが発電することは電気事業法に反し、系統連系することは一切まかりならぬということであった。明治時代に制定され、その後何回か改定されてきた電気事業法には、電力会社以外のものが発電できるのは、自家発自家消費の場合のみと規定されており、たとえ無料であっても構外に電力を供給することが禁じられている。たとえば今回のような停電の場合に小型発電機により発電して自宅で使用し、余った電力を隣家にお裾分けすることは出来ない。海外では考えられない非常識な状況であり、世界的に悪法と揶揄される所以である。

産業界では、この状況を改善するべく電気事業法の改定を要請したが、資源エネルギー庁と電力会社は頑として受け入れようとはしなかった。しかし、産業界は電力自由化という世界の流れの中で強固に系統連系の実現に向けて粘り強く議論を続け、ようやく 1986年に系統連系が容認された。引き続き、分散型電源のメリットを発揮するために、余剰電力買取制度を創設するように要請したが、紆余曲折の後 1993 年にこの制度も実現した。これで日本も一歩欧米に近づいたと歓迎されたが、まもなくして電力会社原案の「系統連系技術要件ガイドライン」なるものが資源エネルギー庁から発行されて愕然とした。

逆潮流ありの系統連系とは余剰電力の売電だけでなく、積極的に電力会社に電力を販売する独立発電事業制度 IPP 方式がある。また逆潮流なしの系統連系では、連系をするが電力を一切系統側に流出することがない方式である。ここで問題になったのは、系統連系した場合には、電力会社の上位系統に短絡・地絡と言った事故が発生した際に電力会社の財産である配電線・送電線の保護をすべて行うこととなっており、コスト的な問題から見て実用化が困難であること、売電価格が極端に安いこと、送電線使用料が極端に高価であることから絵に描いた餅になってしまった。特に余剰電力売電価格の点では、1000kW 以上の安定した電力であれば、平日の午前 8 時から午後 10 時までは東電の場合では¥4/kWh、それ以外の条件では¥2/kWh となっており、タダ同然の安価な燃料を使用しない限りは実現性の無い価格であり、実際に実用化された例は無い。また IPP の日本で実用化率は全発電量の 1%程度である。

次に逆潮流なしの系統連系では例えどんな理由があっても、瞬時たりとも電力を系統側に流出させてはならないこと、系統連系した以上は上記と同じく電力会社の上位系統を保護することと規定されている。しかし実際の運用に当たって、例えば構内の負荷が急激に減少した場合に、それ以上の高速で発電出力の調整が出来ないために瞬間的に電力が系統側に流れることはシステム上避けられないので、結局その変動する最大負荷以上の電力を最低買電電力として設定せざるを得ない。例えば構内で 500kW の負荷変動が生じると、余裕を持って 600kW 程度の高価格の電力を常に電力会社から購入しなければならないということになり、コスト的に実現不可能となり、実用化は同じく僅か 3%にとどまっている。

このような状況では、系統連系が制度として実現しても、省エネルギー性、電力料金のコストダウンが期待できないので、全くの骨抜きの制度となっている。これを主導したのは電力会社側である。このような制度の下では、分散型発電や、卸電気事業、特定電気事業、特定規模電気事業が成立するはずもなく、福島原発が事故で停止した直後に東電の幹部が IPP から電力を買い集めると言っても、何も理解していない全く無責任な発言と聞いた。

これからの電力システムは、地域に根ざした電力供給システムにするべきで、学界・業界では情報処理システムを最大限使用した「スマートグリッド」が検討され、また 50Hz に統一されたユーラシア大陸からの安価な電力輸入も検討されている。もはや巨大集中型発電システムを固持する独占電力会社の時代ではなく、発送配電を分離独立した電力会社の再構築も検討されようとしている。今までの無尽蔵的な電力消費の時代は過ぎ去ったのかもしれない。　以上

（6）一握の砂と東日本大震災　　谷口　宏一

一握りの砂が震災の被災者の方とﾙｸｾﾝﾌﾞﾙｸの方との縁を繋いだ体験談です。

発端は約10年前の夏、ﾙｸｾﾝﾌﾞﾙｸ公国から「皇太后少女合唱団」が犬山での音楽交流にやって来ました。付き添いの中で、一組のご夫婦（Ｓ氏）に我が家に数日滞在して頂き、鵜飼、お茶、浴衣など、日本文化の紹介や立山までの一泊旅行を一緒に楽しみました。帰国後もメル友を続け、X‘mas　Cardはもとより家族の誕生日プレゼント交換などを続けて来ました。一昨年、息子がドイツに行った時は、隣国なのでお宅を訪問し歓待を受けて来ました。

一昨年10月Ｓ氏から、展示会に出すので日本の砂が欲しいと言って来ました。たくさん集めて上げようと思い、犬山はもとより、富士山、鎌倉由比ガ浜、淡路島などの名勝地の砂を集めてお送りしました。その中で、有名な松島の砂も手に入れようと企て、全くの飛び込みでしたが、東松島市の観光協会にお願いのメールを送りました。その事務局のＯ氏が快く引き受けて下さり、小学生の娘さんと一緒に海岸で砂を取って送って下さいました。そして、ご自慢の美しい海岸の写真を手紙と一緒に送って下さいました。そのお手紙を翻訳し、展示用の文を作り、風景写真と一握の砂をＳ氏に送りました。Ｓ氏は、一挙に日本各地の砂が手に入り大変喜んで頂けました。もちろん、その喜びの様子をＯ氏にもお伝えしました。

そして３月１１日（何と私の誕生日）にあの震災です。東北在住ですぐ気がついた方が二家族ありました。一人は犬山で自然保護の仲間だった人ですが、手紙を出したらすぐに無事だと電話が来ました。ところが、東松島市のＯ氏にすぐ出したメールには、ずっと返事が無く、テレビでは、その地区は壊滅的と言う報道が出ていました。

追っかけて手紙を出してみましたが、返事がありません。そこで、パソコンを開いてネットで安否情報や最悪の場合の名簿なども調べている中に、ＮＨＫの避難者名簿の中に名前を発見し、八戸の小学校に居られることを掴みました。

早速、返信用封筒を入れて手紙を出しましたが、宛先人不在で間もなく戻って来ました。再度ＮＨＫの名簿を調べましたが、まだそこに居ることになっていました。なかなか、個人別にその動きを把握するのは困難な状況なのだろうと理解しました。

これ以上どう探すかと思案に暮れていましたところ、４月18日になって、Ｏ氏から「３月１２日付の貴方のメールを見ました。」との連絡が入りました。すぐに、返事を書くとともに、ﾙｸｾﾝﾌﾞﾙｸにも知らせて喜びを分かち合いました。

そして、焼け石に水でしょうが、お見舞い金を添えてお手紙を送りました。

しばらくして手紙が来ました。家は流され、ご家族は無事でしたが中学一年の娘さんは親戚に、ご両親もばらばらに避難所暮らしをしている。幸い元の職場に

戻ることは出来たとのこと。手紙には、以前と同じ所で撮った写真を添えてありましたが、あの美しかった海岸があまりにも変わり果てた画像でした。（下図）

当初からＳ氏が「何か自分に出来ることをしたい。」と言っておられましたので、「Ｏ氏宛にお見舞いと激励の文を書いて下さい。」とお願いしました。そして、先日、それがメールで送られて来ました。中には「しばらく落ち着くまで、ﾙｸｾﾝﾌﾞﾙｸの自分の家に避難して来てもらっても良い。」などの優しいお気持と励ましの言葉が詰まっていました。中でも、座右の盟にしている自作の言葉がある。即ち *"There is life, and where life is, there is hope, and where hope is everything is possible".*と書いてありました。これもすぐに、訳してＯ氏にお送りしました。

そして、ごく最近、Ｏ氏より「Ｓ氏に送って欲しい。」とのお手紙が送られて来ました。中には「最初は大ショックだったけれど、多くの方々の暖かい気持を知ることが出来て前向きに復興に邁進する気持ちになり、中でも外国の方からお手紙を戴いて感激し、益々その意を強くした。」と書いてありました。

大きな被害を受けられたとは言え、ご家族がご無事で、職場があると言うおかげを受けられて、良かったと思います。

それこそ「一握の砂」のご縁でしたが、Ｏ氏が、砂に込められた親切な心がルクセンブルクの人と日本の人の心を繋がれたことになります。

仲介役の私としても嬉しい限りです。まだまだ続く復興期間、Ｓ氏と一緒にずっと見守って行き、支えになって上げたいと思います。　　終

蛇足；正式には、ルクセンブルク大公国ですが、フランスとドイツに挟まれた神奈川県ほどの面積の国です。金融業と鉄鋼業などで栄えており、一人当たりＧＤＰは世界トップクラスです。現存する「最後の公国」とも言われ公爵が行政権を有する立憲君主国で、日本の皇室とも交流があります。

震災前の東松島海岸

震災後（山の形から場所が分かる。）

（７）私の会社時代の語学体験　　津田　眞臣

電気工学科を卒業し、総合商社に入社した数少ない人間の一人として約 50 年間の外国語の体験談のごく一部をご披露したいと思い、この企画に参加することにしました。

１）入社当時の思い出 (その 1)

入社年次の５月初旬、1ヶ月の研修が過ぎて配属された貿易関係の某部課で、当時の上司より「津田君、外人が来たから〇〇工場までつれて行ってくれ」との命令があり、つれて行くことになった。

つれて行くぐらい言葉が出来なくても何とかなると思っていたら、工場に着いた途端 「津田さん、外人さんの隣に座ってこの会議の通訳をお願いします」 と言われ引くに引けず始めたものの、格好がつかずに終わった次第。

帰社後、命令した上司に対し、「つれて行けと言われたので、つれて行ったら通訳までやらされた。これは話が違う」と申し出たところ、「津田君、よくそれで当社に入って来たね」と言われてしまった。

入社前の会社の当時の人事部長との非公式面談では、「我々は君達の語学力に期待しているのではない。会社が必要としている技術力に期待しているのであり、語学の研修など会社側で色々準備しているので、心配無用」という確約を得ていたので随分話が違うなというのが第一印象。

２) 入社当時の思い出（その２）

上記のようなことがあって暫くして、英文による手紙を書くことになった。ない知恵を絞って原稿を書き、同期入社の女子社員にタイプを依頼したところ、暫く読んで言われたことは。「津田さん、次回から日本語で書いて来てよ」。要は、私の書いた英文では何が言いたいのか判らんということであった。

３）その外にも色々な失敗をして来たが、それ等は省略するとして、それらを会社の独身寮の同輩にまとめて相談したところ、彼曰く、「外国語というのは“なれ”でもあるので、この個室内では英語以外は使わないようにしよう」という提案があった。ちなみにその頃は、二人部屋が一般的であった。

向こうは簡単、というのは、彼は東京外大の英米科出身しかも ESS のキャップテン、ところが当方にとっては大変なことであった。

それでも彼の言うことに賛同できたので、実行することになった。先ず英語で覚えたのは「廊下に出て話を聞いてくれ」に始まり、約半年間続けることが出来た。

ところが、その年末寮で開かれたクリスマスパーティーの時、男子寮生の

最低二倍は来ていた多くの女子社員が我々の部屋にも入って来て、この神聖な道場はつぶされたということになった。

４）インドネシアでの経験

入社数年後突然インドネシアのジャカルタへの転勤が決まった。他の東南アジアへの出張経験はかなりあったが、インドネシア行きは初体験。周りの経験者に聞いて見たところ「インドネシア語など簡単で、赴任してから覚えても何ら問題ない」と言われそれを信じて赴任した。

ところが、着任の翌日一人で独身寮で朝飯を食べに行ったところ、全く言葉が通じない。卵、パン、バターなどなど全部現地語でないとだめであった。これは話が違うといっても後の祭り。覚えるしかないと思い数日後から猛勉強。

約３ヵ月後には並の駐在員に追いついたこともあった。

5) ナイジェリアでの経験

ナイジェリアは、アフリカ大陸の中央部にある英語圏の国である。アルジェリアが｛地の果て｝という歌もあったが、私に言わせれば、ナイジェリアはそんな生易しいもののではない。

先ずもって、彼らの日常しゃべっている「英語」を理解するのに相当の時間を要する。

よく聞いていると、単語は確かに英語のようだが、発音が聞きなれた英語とは違い、最初の３ヶ月位は相手の言っていることが殆ど理解できなかった。

ひとつの例として、Yes と No の使い方が全く日本語と同じで、英語の文法とは完全に違うのである。それ以来この国では、「否定疑問詞」は一切使わないことで対処することにした。

6) スペイン語

これは難しい言語である。 動詞の活用には不規則が多く，ひとつの動詞が24通りにも活用する。頑張って取り組んだが，たいした物にならずじまいに終わった。

ここまで来て気付いたことは、残りのページが殆どないことです。こういう企画を提案された幹事の皆様には多大の謝意を表明すると共に，次回もしこのような企画をされる時には、もっとページ数を与えて頂き、色々なことも自由に書かせていただく機会をあたえて頂ければ幸甚です。 終

（８）卒業コンパと写真　　新岡　武春

設問の課題に対して当方文才もないので、自由課題で下記エントリーします。身辺整理のつもりで数少ない古い写真を整理していた中に　第五講座・宮越研究室の卒業コンパ(1961-3)のメモ付スナップ写真を見つけました。

若干セピアカラー気味の白黒写真です。早速スキャナーでデータ化して添付します。当時を振り返るとフィルム・カメラも高級品にて小生もアルバイトで稼いだなけなしの資金でニ流の一眼レフカメラを入手してこれで撮ったのではと記憶してます。

もう既に他界した同窓、及び先生がたを懐かしく思い出しています。

このスナップをきっかけに思いで話しに展開すれば誠に幸甚です。

第５講座・宮越研究室卒業コンパ（1961-3）

＜最後列＞　細見、永見先生、渡士、八島勲、西江

＜中央列＞　田中、小川、野原さん、

＜前　列＞　中村先生（第３講座）、宮越先生、源さん、新岡、伊藤芳郎、

（９）「自然鑑賞にみる詩歌」　　吉田　哲郎

田舎に生まれ野山を駆け巡った少年時代の経験がどうしても体の中に、心の奥底に存在していて、自然は常に自分と共にあった。

事故で脚を骨折したそのリハビリに始めた山登りは、自分の趣味となった。趣味は我を通す世界である。わがままが通ることが一番自分を満足させる。従って若い体力のある時代にはどうしても単独行が性に合った。しかしながら、年を重ねて体力も落ちてくると単独行は中々無理となり、幸い家内が山好きであったことで夫婦で山登りをするようになった。60 歳まではテントを背負って縦走もした。

北海道の大雪山を旭岳からトムラウシ山まで縦走中キタキツネにテントを食い破られたことや燕岳に登る途中、合戦小屋傍にテントを張って寝ていたら夜中に熊がテントの近くに来て唸り声をあげたこと等々夫婦で今でも語る思い出です。

単独行の思い出はやはり人に助けられた感謝の記憶である。例えば、雪山に出来るだけ上までと、四駆のジムニーにチエンを巻いて登って行き、細い山道に入って動かなくなったこと。1 時間以上かけて麓の農家に歩いてたどり着きＪＡＦに電話をして助けを求めたが(当時はまだ携帯を持っていなかった)、状況から車で行くことは無理と断られ、仕方なく農家の方に頼んで、土砂とシャベル、ツルハシを用意して、四駆の軽トラで一緒に行ってもらって何とか脱出したこと。

電車で一人で行って荒島岳に登った時大雨で登山道が川になったが、何とか登頂して下山したら、前夜泊まった民宿の人が待っていて、大雨で九頭竜川が氾濫し鉄橋が流されて電車が不通との事で、車で来て宿泊していた夫婦に電車の通じている駅まで送ってもらうよう頼んでおいてくれたとのこと。人の情けの有難さをしみじみと感じました。

大雨といえば、これも単独行で大峰山塊の山上ガ岳から八経ガ岳までの奥駆道を縦走したときは、居ないといわれていたカモシカに遭遇したこと、大峰の名花オオヤマレンゲの花を見れたことが雨の記憶とともに印象に残っています。そして自然の素晴らしさを実感し､それを詠んだ詩歌に興味を持つようになりました。

さて、春の訪れは次の三好達治の詩から始まります。

山なみ遠に　春はきて　　こぶしの花は　天上に
雲はかなたに　かへれども　　かへるべしらに　越ゆる路

夏になるとやはり「夏の思い出」（江間章子作詞、中田喜直作曲）でしょうか。

夏が来れば　思い出す　はるかな尾瀬　遠い空　霧の中に　うかびくる
やさしい影　野の小径　水芭蕉の花が　咲いている　水のほとり
石楠花色に　たそがれる　はるかな尾瀬　遠い空

そして、芙蓉の花を詠った唐の詩人王維の漢詩。

木の末（こずえ）なる芙蓉の花　山中に紅き花を開く

澗戸（かんこ）は寂（せき）として人無く

紛々（ふんぷん）として開き且つ落ちる

八重花の芙蓉は朝白く、昼薄紅色になって夕方赤く萎んでいく。酔芙蓉と呼ばれ、「風の盆恋歌」（なかにし礼作詞、三木たかし作曲、石川さゆり歌）にある。

蚊帳の中から花を見る　咲いて儚い酔芙蓉

若い日の美しい　私を抱いて欲しかった

忍び合う恋　風の盆

ところで、春の七草は主眼が葉にあるのに対して、秋の七草は花が詠われている。万葉集に山上憶良の二首がある。

秋の野に咲きたる花を指（および）折りかき数ふれば七種（ななくさ）の花

萩の花尾花葛花なでしこの花女郎花また藤袴朝顔の花

葛も花が対象で詠まれているが、葛は古くから根を食に（葛湯、葛餅、また漢方薬の葛根湯など）、茎皮は衣に用いるなどされてきた。山歩きなどで土手を覆って茂っているのを見たりする。米国に渡って厄介者にされているとか。しかし花は藤の花より小さいが、上向きに咲いて葉陰にちらりと見えたりするのは趣がある。

葛の花　踏みしだかれて　色あたらし。この山道を行きし人あり（釈超空）

葛の葉は風になびいて白い裏を見せるので、「裏見」を「恨み」にかけて詠まれたりする。

あき風のふきうらがへすくずのはのうらみても猶うらめしき哉（平貞文）

説話集にある信太の森の狐（葛の葉）にまつわる伝説の中では安倍の保名の妻となった狐が夫に別れ子に分かれる時障子に書き残したという一首がある。

恋しくば尋ね来て見よ和泉なる信太の森のうらみ葛の葉

保名と童子丸は狐を訪ねて信太の森に行き狐に会って水晶の玉と黄金の箱を受取り別れる。この童子丸が陰陽師として知られるのちの安倍晴明である。

葛を詠んだ詩歌は沢山あるが、私の一番好きなのは田中冬二の次の詩です。

じじいとばばあが　だまって湯に入っている

山の湯の葛の花　山の湯の葛の花

これは黒部の宇奈月温泉から黒部峡谷鉄道（トロッコ電車）で欅平に向かう途中にある秘湯黒薙温泉で田中冬二が詠んだといわれている。田中冬二の詩は　向井潤吉の絵画同様その素朴さが私の好きな作品です。

最後に、私の拙い短歌を一つ。

迷い来て　見上げる峰の頂は　紅葉に白き　初雪の降る

四季は巡る。年年歳歳花相似たり。しかしながら、歳歳年年人同じからず。

願わくば、この美しい日本の自然をいつまでも楽しみたいものである。

（完）

４、この 50 年

文集にお寄せ戴いた文の中で、50 年の歩みと 10 年間の同窓会の流れを書いて戴いたものが２つありましたので、別項目として掲載しました。

（１）卒業から 50 年　　田崎　三郎

1961 年 3 月，私たち同期の 50 名は学窓を去り，新たな人生を歩み始めた。

同時に，電気工学科創設に寄与され，我々がひそかに Rare Old 先生と呼び敬愛していた光野，秦，益子の三教授が定年退官された。三人とも確か満 70 歳だった。またこの年，電気工学科を核として新たに電子工学科が宮越教授を中心として 4 月に発足した。つまり，1961 年は，大阪府大電気系にとっては旧から新へと大きく変貌を遂げる，Epoch making となった年であった（浪速電気ｸﾗﾌﾞ第 12，13 号より抜粋。いずれも 1961 年発行）。なお言うならば，それまではガリ版刷りで発行されていた『浪速電気クラブ』がﾀｲﾌﾟ印刷されたのは，この 13 号からだった。

我々は社会に出た直後に第２室戸台風の襲来を経験し，一週間も電気や水道が使えないという生活を送った。ただ，これも 2011 年 3 月 11 日に発生した世界史上未曾有の東日本大震災の被害に比べれば，ささやかな記憶のﾚﾍﾞﾙかも知れない。

当時の我が国の世相については，岩戸景気をきっかけとしてレジャー・ブームが始まり，「わかっちゃいるけどやめられない」（植木等）や「どーもすいません」（初代林家三平）なる言葉，子どもの好きなものとして「巨人、大鵬、卵焼き」などが流行している。また，「女子大生亡国論」（暉峻康隆）が出たのもこの年であり，現在，大学生として女性のほうが多い状況を見ると隔世の思いがする。さらに，今でもよく歌われる「銀座の恋の物語」，「上を向いて歩こう」 などが発売されたのもこの 1961 年だった。

世界では，旧ソ連のガガーリン少佐が人類始めての有人衛星に成功し，これが人類の宇宙への旅立ちの出発点となった。彼の“地球は青かった”という言葉はいまなお新鮮である。なお，米国では John F. Kennedy が第 35 代大統領に就任し，また，**東西ベルリン間に壁**が出来ている。

1981 年 5 月 8 日，この春工学部長に就任された畑四郎先生から 9 期生クラス会に寄せられた手紙をここで改めて紹介しておこう。

『拝啓　新緑の折、益々ご健祥にてご活躍のことと存じます。

さて過ぐる 5 月 3 日貴兄らの卒業 20 周年の集いの節は，お招きに預り大変有難うございました。その節は工学部長就任のお祝いにチェコ製の立派なカットグラス花瓶を頂戴し重ね々々厚くお礼申し上げます。

卒業されて 20 年，それぞれのポストで責任ある仕事をやり遂げておられる様子を承り大変心強く感じました。

当時は私もまだ 40 才前で，貴兄らと一緒に遊んだり飲んだりしていた印象の方が

よく残っております。今後，働き盛りの貴兄らの仕事の上での責任も益々重く，それだけにやり甲斐も大きくなると思います。どうか一層バイタルに発展をつづけて下さるようお祈りします。
御自愛御健康で一層のご活躍をお祈りします。　　敬具』

さて，2011年となり，我々がこれまで過ごしてきた50年の間に，クラス会の度ごとにご招待していた元学長の畑四郎先生も本年この世を去られた。そして，我々の母校は2005年の大学独立法人化と府立系3大学(大阪府立大,大阪女子大,大阪府立看護大）の統合を経て，現在，7学部・7研究科を有する総合大学として発展してきており，電気系もいまや電子物理，電気情報システム，知能情報の3学科構成となっている。さらに，2012年度より，大阪府立大は再び理系を中心とした工学域，生命環境科学域，現代システム科学域，地域保健学域の4学域からなる新たな大学へと変革する予定である。(これについての詳細は，Webの奥野武俊理事長・学長による「卒業生の皆様へ」をご参考頂きたい)。　　終

「百舌鳥」随筆一覧表　（昭和36年発行）

浅田　充浩	・愛についての片言	出水　博造	･ﾀﾞﾝｽと音楽について
	・落葉	新岡　武春	・音楽の功罪
芦沢　幸雄	・ヴァイオリン雑感	西江　弘行	・雑感
稲田　昌義	・美しいもの	長谷川　正彦	・キャンプ
伊藤　泰朗	・寄文	波多野　博司	・仏像
小川　順宏	・世の終り	林　常雄	・題はつけられない
	・広き野をめぐりて	福田　武久	・日向路
河合　一郎	・電車雑感	本田　浩二	・大阪のことなど
川阪　益造	・ﾓｰﾀｰﾌﾟｰﾙﾎﾞｰｲから見た国産各車の比較	細見　潔	・技術者の道
		増井　澄遠	・過去の一年
北野　雄一	・旅	三宅　克忠	・人生の並木道
黒河　輝久	・趣味	山田　公	・愚者の断想
杉山　毅志	・見て見ないふり	八真駄美乃留	・ある出来事
田崎　三郎	・大学生活4年間	山森　こう	・私の趣味
	・電気科北海道旅行	横松　丈志	・魚取り
田中　博	・ある経験	吉田　哲郎	・詩情
谷口　宏一	・乗物	八島　勲	・随筆、アルバム
高橋　朗	・友への手紙		・興信所
津田　眞臣	・最近の国鉄電車	6講座悪人同人	・切り捨てご免人物寸評

（2）写真で綴るここ１０年の同窓会　(2001~2010 年)

長谷川　正彦　編集

==========

2001-7-26．27　高野山の寺院・宿舎　　参加 13 名　世話人　幹事団

サブイベント　母校・府大を見学／高野山の寺院・墓地群を観光

==========

2004-10-5．6　伊勢志摩ロイヤルホテル　　参加　畑先生+19 名

世話人　浅田・長谷川・芦澤

サブイベント　伊勢志摩めぐり 10 名／伊勢志摩ＣＣゴルフ 10 名

==========

2006-10-1．2　伊豆熱川温泉「志なよし」旅館　　参加　畑先生+20 名

世話人　出水・津田

サブイベント　下田市内　歴史名所／史跡を観光

（10/3　有志ゴルフ　三島ＣＣ　参加 7 名）

==========

2008-10-5.6 京都・嵐山　ホテルらんざん　　参加　畑先生+24 名

世話人　森田・久保田

サブイベント　嵐山・天竜寺・大河内山荘を観光

（10/7　有志ゴルフ　瀬田ゴルフコース　参加 6 名）

==========

2010-10-6．7　箱根ホテル小涌園　　参加 22 名　世話人　石井・新岡

サブイベント　箱根強羅―大涌谷―芦ノ湖を観光

(10/8　有志ゴルフ　三島ＣＣ　参加 7 名)

５、物故者を偲ぶ。

こころざし半ばで逝かれました同期の６人の仲間への追悼文です。

（１）浅田　充浩氏に捧げる。

①川阪　益造

他の諸兄の場合と異なり私の場合は前の入学年度からのずり下がりがようやくこの９期で止まったという関係なので、在学中については殆ど想い出はない。浅田兄とのつながりは、ほとんどがこのND９会を通じてのものである。

永年お世話になったＯ社を定年退職後、私は紹介されたシステムハウスにしばらく籍を置いたが、そこにはご縁がなく、一時は新聞広告を見て職を探すようなこともあり、身の置き所がなくたいへん困っていた。1996年夏に、ＮＤ９会で西伊豆土肥温泉へ行ったときに、浅田兄（以下、彼という場合があります）は、(株)近計システム社長の要職にあったが、私は窮余の行動として、彼に求職のお願いをしてみた。普通の人であれば、「考えとくわ」で終わるところであるが、彼は 帰阪するや直ちに近計システムの役員会を招集し、私を工場長付スタッフとして採用するよう特例として決定していただいた。

ここから、私の第二の人生が始まるのである。同社で私はISO9001品質マネジメントシステムの事務局員をつとめさせていただいた。彼が最高責任者、私が事務局員として、品質管理責任者の方を交えて、いろいろと議論をしたものであった。同社では、このほかにクレーム処理についても担当したが、私にとってたいへん有用な時期であった。近計システムは、もと近畿計測器といい、電力会社の電力系統監視及び記録システムで高いシェアを誇る技術先行型の企業である。同社で元府大学長の故畑先生が、監査役をしておられ、かねがねマネジメントを実践したいという希望を持っていた浅田兄に紹介したことがきっかけとなって彼の社長就任が実現したのである。

私は、同社に約２年お世話になったが、経済環境の悪化に伴い勇退することになった。その代わりに紹介してもらったのが、私の現勤務先の京都電測(株)で、私はそこで既に13年も在職し、私の第二の人生の大きな部分を占めている。これは全く、浅田兄の友情とご厚意によるもので、私にとって大の恩人である。

彼は、たいへんな愛妻家であり、また非常な努力家でもあった、難関である技術士（電気）の資格を、早くに取得されており、このことが企業経営にも役立つたものと信じている。

彼は同窓会活動にも大きな功績を残している。中百舌鳥電気ｸﾗﾌﾞ会長としても貢献されたが、ＮＤ９会にも幹事世話役として、何回も率先して当たられ我々の親睦と団結に大きな役割を果たされた。またＮＤ９会の名付け親でもあった。

彼は、2006年春頃から原因不明の難病に罹り、療養中であった。私は伊勢市の病院にお見舞いに行ったが、病苦のためかなりやつれておられた。その１週間後に彼は、志半ばにして帰らぬ人となられた。　お葬式は、内輪でお弔いされると言うことで辞退されたので、お見送りできなかったことは　とても残念なことであった。

合掌

②北野　雄一

浅田さんと小生とは共に電機メーカに在籍し、同じ産業用電機部門に所属していましたが、業務上の直接の関連はありませんでした。彼は時々東芝本社を訪れ、小生とは他部門での技術打ち合わせなどをされていました。そのときには、小生が在籍している限り社内でお会いして、いろいろと懇談しておりました。何時頃だったかははっきりと記憶しておりませんが、お話の中で現在の会社ではしたい仕事が出来ない点もあり、大阪に戻り一から出直したいと思っている旨の話がありました。それから暫くして畑先生のお世話で、計装機器メーカに就職したとの連絡がありました。この経緯は同期生諸氏も良くご承知だと思います。東芝での小生の業務には計装システムは殆ど関連がなかったので､彼のお役に立つことはありませんでした。

彼に会ったとき､「技術士の資格を取ったよ」と言われたので、小生も挑戦してみようかと思いつつ、多忙に紛れそのままになっていました。あるとき、東京都立大学（現首都大学東京）の教授と雑談している時、技術士の資格は取っておいた方が良いと言われ、浅田さんのそのときの話を突如として思い出しました。1987 年 3 月頃のことでした。それから会社業務と併走しながら 4 月の願書提出、受験勉強、8 月の 2 次試験、12 月の面接試験と 1 年間、業務の合間を縫って競争率が数倍程度の難関を切り抜けました。折角取得した資格は東芝での業務には何ら関係はありませんでしたが､技術士という言葉を聞く度に浅田さんのことを懐かしく思い出します。

浅田さんは、大阪の新しい職場で元気にやっている旨、聞き及んでいましたが、小生もまもなく東芝から新日本空調に招聘され､電気･計装部門の立ち上げに協力することになりました。空調では制御が中枢をなすもので、わが国では横河や山武といった所が殆どのシェアを占めています。浅田さんは分厚いカタログと、部下を連れて小生を尋ねてこられ、この中で空調に使用できる計装機器があれば検討してほしいとの依頼がありました。いろいろ検討しましたが、彼の所の計装機器は殆どが電力用であり、空調には使用出来ないことが分かりました。しかし、系統電力の瞬時変動を検出する計器がある事を見つけ、立ち上げ準備をしていた分散型熱併給発電装置に使用できるかもしれないと言ったことがあります。その後も彼が上京される度に会社を訪ねてこられ、仕事以外の雑談もしていた記憶があります。

時が経て、小生が東京ガスに勤務していた頃、彼から連絡がありました。その日は丁度南千住の東京ガス千住研究所で講義をしていましたが、今夜ぜひ会いたいとのことでした。浅田さんの会社の東京営業所は三河島で南千住の隣の駅です。講義終了後、午後 6 時頃に三河島駅で待ち合わせることにしました。彼は当日大船の弟さんの家に泊まるとのことでした。小生の自宅も大船に近いので、そのまま大船に移動。駅前の飲み屋で酒を酌み交わしながら旧交を温めました。その日の用件は、次回の同窓会のお手伝いをしているが、いろいろ知恵をお借りしたいと言うことでした。この同窓会と言うのは、2004 年秋の志摩での同窓会です。その晩は話に花が咲き、帰り際に弟さんが大船駅観音側に車でお迎えに来られました。お見送りした彼の後姿が今生の別れになるとは全く思いもしませんでした。

同窓会が終了した 2004.10.13 に浅田さんから次のメールが来ました。

「北野　雄一　兄

台風一過秋らしい日になりました､同窓会は盛会の内に終わりほっとしています。貴兄には元気な由、大慶です。11 月に大阪にこられる予定とか、足を伸ばして伊勢

にお寄りになりませんか。歓迎します。芦澤さんにも声をかけて、伊勢で歓談しましょう。如何ですか。　　浅田充浩」

このメールに対して同日、次のようなご返事をいたしました。
「浅田 充浩様、芦澤 幸雄様
メール有難うございました。伊豆地方は台風 22 号で被害が出ているようですが、横浜地方はたいしたことはありませんでした。
伊勢へのご招待、有難うございます。11 月 5 日から（高校同窓会で）大阪に行く予定をしていますが、丁度 10 月 18 日から 12 月 10 日までの予定で、拙宅の耐震工事及び改装工事に入る予定です。この間は大体在宅して、工事進捗状況と工事内容を管理する必要があり、時間が無くて残念ながらお寄りすることは難しいかと思います。工事は相次ぐ台風襲来で延期になってしまい、ようやく今頃になって工事を開始します。進捗状況によっては、大阪行きも中止することも考えています。例え行ったとしても、朝の飛行機で出かけ、夜の飛行機で帰宅するというようなハードスケジュールになりそうです。
貴兄にはこの前の同窓会ではお会いできなかったので、(小生の病状から) 今生の別れもしておきたいのですが、折を見て是非お伺いしたいと思っています。それまでしばらく時間をください。折角のお誘いながら、大変申し訳なく思っています。
（後略）　　北野 雄一」

確かこの年の暮れに、浅田さんの奥様から訃報が入りました。一瞬何のことかと思いましたが、浅田さん自身の訃報だったのです。なぜこんなことが起こるのか、小生の先行きが短いかもしれないので、先に今生の別れを小生の方から行おうと思っていたのに‥‥悲しい知らせでした。彼は学生時代に「流浪の旅」という大正時代の唄を良く口ずさんでいました。そしてついに故郷に帰ることもなく旅立ってゆきました。どのような想いで、旅立ったのでしょうか。友人と会うということは、これが一期一会であり、最後になるかもしれないと言う思いで、機会を大事にしなければならないとしみじみと思った次第です。伊勢へのご招待をご遠慮したのが、大きな悔恨でありました。
彼のご冥福を祈りたいと思います。　　合掌

＜浅田さんとともに＞

③久保田　康平

浅田充浩君は、神鋼電機（株）から、技術士であるという腕を見込まれて社員数２５０人余を有する（株）近計システムの社長に就任した。（株）近計システムは、関西電力（株）の関係会社の関西電気商事（株）から製造部門を分離するために作られた会社で、日本有数のオシロスコープや測定器を製造していた会社であった。私が関西電力（株）を退職し関係会社である関西計器（株）の通信部門にいた頃、彼は時々訪ねてきては「製品開発のヒント」を掴もうと色々意見を聞いてくれたり、また　「製造部門の改善点」が見出せないかと　私達の計器修理工場の見学をされていた姿が懐かしく思い出される。

④津田　真臣

浅田君は、律儀な性格で、近計システムの社長をしていた頃には、東京に出てくる毎に電話をくれて、何度か会って話をした事がある。社長業の話は随分面白かったし、また色々参考にもなった。調子に乗って定年後の再就職を頼んだこともあったが、小生が海外出張時に急逝され、惜しい友人を亡くしたものである。改めて心からご冥福をお祈りします。

⑤出水　博造

浅田君とは小生が二度目の西独から三井物産本店に転勤、情報電子機械部に在籍していた時（2000 年 5 月 25 日）、浅田氏が尋ねてこられた。当時大阪の（株）近計サービスの社長をしていて、今後の新規製品開発や商品企画について小生の情報や欧州の新規商品などについて知りたい、又物産関連会社を紹介して欲しいとの事で、その後再三来られました。物産関係会社も紹介し商圏開拓に意欲を持っておられましたし、色々お話しした事を思い出しました。

（後日丁寧且達筆な礼状を頂いて本日探して見ましたが､見つかりませんでした。有れば自筆のものとしてお届けしようと思ったのですが、残念。）

（２）伊藤　泰郎氏の思い出

①稲田　昌義

卒業後の出会い２件

（１）東京へ出張し、晴海の国際見本市会場でのイベントショー場内を見て歩いていた時、「おい稲田、今夜は空いているか？」と声を掛けてきたのが、伊藤泰郎君であった。「田崎さんが東京へ出張して来たので、今夜同級会を開く、幹事は北野君で会場は銀座」とのこと。即、OK をして別れた。

＜伊藤氏　左端＞

その夜は銀座でのミニ同窓会に参加することが出来た。

（２）伊藤君が病気をして大手術を受け、身体を動かすことが出来るようになってから同窓会を計画して、飯田線の湯谷駅近くの温泉で開いてくれた。頭には毛糸で編んだ帽子をかぶっていた。二日目の散会の際、電車の駅で別れる時の彼の挨拶は、「死ぬなよ。」であった。それから、会うことが出来なくなってしまった。

②小川　順宏

“好きな人の一人でしたが、そこで名前の泰郎（たいろう）を戴いて次男の名にしました。その後、彼に会うこともかなわず、そのままになってしまいました。”

③津田　眞臣

彼は人を纏めるのに異常な才能を発揮することがありました。

これは彼の生前数ヶ月の話で、今でもよく覚えておりますが、関東地方の同窓会を有志数人で行った時、彼曰く「たまにしか会えないのに、この一次会だけで解散するのは忍びない。本音の話合いも含めてもう一軒行こうではないか」。

これには参加者全員が即座に賛成し、大いに盛り上がったことがありました。

お葬式には、参列させて頂きましたが、あの幸せそうなお顔は忘れることが出来ません。　伊藤君どうか安らかにお休み下さい。　　合掌

（３）伊藤　芳朗氏の思い出

①久保田　康平

伊藤芳朗氏とは、以下のような縁がありました。

第二次大戦中に大阪市内にあった私の住居が焼かれて、戦後も住居を転々としていた頃小学２年生から４年生の間　吹田第二小学校で過しましたが、その時「伊藤芳郎君」が同じ組で家も近く友人でした。私はその後信州に移り住み、一年浪人して大阪府立大学の電気工学科に入学した時に「伊藤芳朗氏」と再会し、奇遇に驚きました。その後も友人としてお付き合いさせて頂きました。

②北野　雄一

私が卒業後に勤務していたのは殆どが東京で、大阪に転勤で勤務していたのは昭和 38 年～42 年の 4 ヵ年だけでした。大阪不在の頃のことと思われますが、伊藤　芳朗さんが旅立たれたことを知りました。いつの時点であったのか、何が原因で亡くなられたのかは詳しくは知りません。

伊藤さんと知り合ったのは、入学後すぐの頃、キャンパス内で各部活の新入生獲得の催しがあり、バドミントン部のコーナーで伊藤さんが入部を誘惑されていたのです。そこに通りかかった私も同じ電気工学科だと言うことで、一緒に入部しないかと誘われ、余りスポーツ関係は得意ではなかったのですが、心機一転やってみるかと二人で入部手続きをいたしました。その年の新人は結局この二人だけでしたが、それだけに時間の許す限り日々の練習と、夏季合宿にも参加していました。放課後、もう暗くなった夕方に練習のために二人揃って府立体育館に通ったときを昨日のように思い出します。私は私的な都合もあり、1 年ほどで退部しましたが彼はその後も続けていたようでした。

また、新岡さんをお師匠さんにして屋内スケートリンクで始めてアイススケートに挑戦したのもこの頃のことでした。その年の冬、手摺りの無いスケートリンクで練習の成果を試すべく 3 人で信州蓼の海に遠征し、一日中スケートを楽しんでいたのも想い出のひとつです。時間の制約が無いのを幸いにして、信州の帰り道、遠回りをして伊豆半島にまで足を伸ばしてスケート疲れを癒したこともありました。

右の写真は、入学後暫くして和歌山組の石井さんと出水さんに案内していただいた和歌の浦での一コマです。

いま、改めて卒業時のアンケートを覗いてみると、クラブ活動の A 級突入と海外旅行が望みだったと記されていますが、後者はともかくとして、クラブ活動の A 級入りは彼の努力にも拘らず果されなかったのです。

彼は温和で真面目な人間であったのは良くご承知だと思います。クラブ活動をしていたときは、彼の自宅にも何回かお邪魔し、またご両親にもお会いいたしました。最愛の息子が若くして旅立たれたご両親の想いはいかがだったでしょうか。死亡率 100%の我々もいつかは同じ道を歩むことになるのでしょうが、志半ばで先立たれた悔しさにはなんとも言いようの無い虚しさをっ感じます。在原業平が詠んだ「終に行く道とはかねて聞きしかど　昨日今日とは　思はざりしを」という和歌がありますが、年齢を重ねてきた今日この頃、この和歌が心から離れなくなりました。。

伊藤　芳朗さんのご冥福をお祈りすると共に、我々がいつかそちらに行ったときは、昔の好で出迎えてくれることと思っています。　　終

（４）内山　享（旧姓　伴）氏の思い出

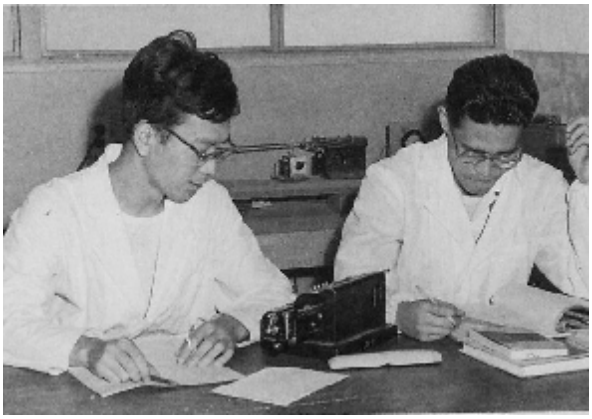
①久保田　康平

内山享氏は、（私と同じ）電気工学第三講座に在籍し、藤村先生（当時助教授だったか講師だったか忘れましたが・・・）の唯一の弟子として、「放電加工の研究」をやっておられ、「結構、数多くの実験をやらなければならないんだ」と言いながらコツコツと放電加工の実験をされていた姿が懐かしく思い出されます。

②出水　博造氏より情報提供された内容をまとめたものです。（文責：幹事）

2004年10月頃、同期会の後、写真送付などでメールをやりとりしたそうです。その時、「血液の病気にかかっているが、丁度退院して自宅療養になったところで、今後はインターネットで囲碁の対局をしたい。」と記されていたそうです。

出水氏は、同じ病気の友人から話を聞いて彼に伝えて上げたそうです。



＜増井氏と内山氏＞

（５）増井　澄遠氏を偲ぶ

①稲田　昌義

増井君と私は、中百舌鳥駅から、府大と反対方向に歩いた方向の下宿を利用していた。増井君は中百舌鳥駅からは近く私の下宿は更に北の「長曽根町」にあった。

増井君とは、同じ第三講座に所属し、下宿も近いため、近しい関係にはあった。

初めにぐっと近くなったのは、学生の間に自動車免許を取得したくて、運転の練習をする事になった時である。増井君は、自動車部に入っていて、先輩格に、川阪さんと宮浦さんがいた。増井君は、小さなトラックを借りて来て呉れて、校内で動かすことの練習が始まった。どこかのグランドに、金属棒で筋を引き、そこで「クランク」や「Ｓ字カーブ」の練習も始まった。坂道発進の練習は、化学工学科教室の車寄せの坂道だった。増井先生は厳しかった。へまをすると罵声が飛ぶ。けれども親切であった。自動車部と増井君のお蔭で、ガソリン代だけの負担で、自動車運転の基本を学ぶことが出来た。学科試験は、電気工学科のクラスメート数人と一緒に受験した。次は、実技試験だ。試験コースでの経験はない為、自動車教習所で、30分間の練習を受けた。教官は横に乗るが、増井君とクラスメートが後部席に座っての実地練習を２回行った。最初の実技試験では、一つ手前の「クランクコース」に入ってしまい、失格。２回目の試験は夜間の時間帯というので、その時間帯で営業している塚本駅近くの教習所を探してもらって、増井君が後部席に乗って練習を終えた。２回目の実技試験は合格。運転免許証を取得する事が出来た。増井先生は恩人である。

次は、夜の行動である。私は決して酒に強くはないが、「飲む」雰囲気は好きであった。増井君は酒は強かったと思う。深酒はしないが、二人で何度も、堺東へ出かけた。アルバイト料が入ったからとか、奨学資金が入ったからとか、少々のお金が出来ると、出かけることになる。帰るのは１２時をとっくに過ぎ、同じ方向だから、タクシーを利用する。時にはスナックのオーナーに同乗させてもらうこともあった。

卒業後は、顔を合わせることは殆んどなかった。宮浦さんから、増井君が難病に罹り入院したとの連絡があり、二人で阪大病院へ見舞いに行った。舞鶴からの土産に蒲鉾を持参し、届けてもらった。身体の免疫力が弱っているとのことで、マスクをかけて短時間の面会を病院から許された。本人は元気そうに話して呉れた。「蒲鉾は旨かった。」と言ってくれたのが最後に聴いた言葉となってしまった。ご冥福を祈ります。

②谷口　宏一

学生時代の記憶であるが、ニックネームなのか、「ゾーイ」君と呼ばれていたような気がする。かなり強い度のめがねをかけて、頭の毛が多くトサカのようで、独特の話しぶりだったように思う。中モズ駅の踏切を渡ってすぐの下宿に訪ねて行ったことがある。メカ好きで、自動車同好会に所属されていた。ある日「夕べ徹夜した」と言うので何故か聞いてみた。卒論のためにあの「ｶﾞﾁｬ・ｶﾞﾁｬ・ﾁｰﾝ」と言う手回しの計算機を借り出して、雨に濡らしてしまった。そこで、全部品をバラして、乾かして再組み立てしたと言うのである。その責任感の強さと技術力には感心した次第である。きっと良い技術者になられたと思うのに、卒業後すぐに病で亡くなられたと聞いている。本当に残念である。

③吉田　哲郎

増井君は私が府大電気工学科に合格し来阪して出会った最初の学友であった。彼は三重県から、私は山口県から、青雲の志を抱いて中百舌鳥の学生アパート「紫雲荘」に入り、そこで初めて知り合い四年間を一緒に過ごした。

秀でた額を髪で隠した色白の好青年であった。彼は自動車部の部活に入り運転免許を取ってからはモータープールでのアルバイトで忙しく、私は家庭教師のアルバイトで忙しく、大学からアパートに帰っても中々一緒に居る時間は少なかったが、試験前には講義ノートを見せ合ったりした。藁半紙にきれいに書き写していくのが、彼の流儀であった。

三回生の夏休みに日当が貰えるからとのことで、二人で南海電鉄の企業実習に参加して、早々と学外実習の単位を取得したりもした。

麻雀も彼に教わった。やはり藁半紙に上がり役を書いて丁寧に教えてくれた。煙草をよく吸い右手の人差し指と中指の先は真っ黄色に染まっていた。部屋で酒を飲んで歌を歌ったりもした。「暁に祈る」が好きで、私は一番の「ああ　あの顔であの声で…」しか知らないのに、彼は二番の「ああ　堂々の輸送船…」以下も知っていて全部歌うので、頭の良い奴だと思った。堺東の夜の街にも一緒に飲みに行った。カウンターに座って、トリスのシングルやハイボールを飲みながら粘ったものである。思えば楽しい青春時代であった。

卒業して別れ別れになってしばらくしてから、同期会幹事から知らせを受け、彼が最新の現在医学をもってしても直すのが難しい病気にかかって危篤状態らしいとのことを知った。すぐに手紙を書いて送り、少し遅れて献血手帳を作って届けた。まもなく奥様から便りをもらった。彼は私の手紙を読んで、涙を流し喜んだとのこと。しかし後で送った献血手帳は間に合わず、あの世に旅立ったとのこと。私の送った献血手帳は奥様の手紙に同封されて戻ってきた。涙で書かれた奥様の手紙を涙で読んで、私はあまりにも早い彼との別れを悲しんだ。

ああ　思えば本当に純粋なよい奴であった。今もこれを書きながら涙が出てくるのを抑えることができない。いずれあの世で再会し、酒酌み交わし、一緒に「暁に祈る」を手拍子打ちながら歌うことになるだろう。それまで彼の冥福を祈っている。　合掌

（６）矢島　昌典氏　を偲ぶ

宮井　彬文

矢島さんとは４回生で、保田誠也さんと第１講座で研究したと言うよりよくさぼっていた。矢島君はスポーツマンで明るく頭も良くいい友達だった。

彼は将来、森繁久弥さんのヨットで海外へ行きたいと話していた。

そんな彼が早く逝ってしまい残念です。今でも居ってくれたら楽しく話しが出来るのにと時々思い出します。

＜矢島氏　右端＞

ご冥福をお祈りいたします。　　合掌

＜終わりに＞

多くの方々から、原稿を提出戴き有難う御座いました。

おかげさまで、40ページにもなる記念誌が出来上がりました。

中でも、亡くなられた仲間の方々に多くの文が寄せられましたことはすばらしいことで、故人の方々もお喜びのことと存じます。

なお、文章や文体、仮名遣いは、皆さんの原稿通りとしてありますが紙面統一や組み合わせのために、掲載順序、フォントの設定、文章の折り返し部分などを変えてしまったことを、お詫びいたします。

巻頭言でも述べられていますように、この記念誌が11月の50周年記念同期会の盛り上げに一役買うようになれば、嬉しく思います。

最後になりましたが、表紙の50年後の電気系建屋写真の候補としてわざわざ10数枚を撮影してお送り戴きました同窓会事務局の辻本博一様に厚くお礼申し上げます。有難うございました。

平成２３年（2011年）９月吉日

編集幹事：田崎 三郎　・ 谷口 宏一
発 行 人：宮浦 昭太郎・ 川阪 益造